

## 次期総合5か年計画の策定について

企画振興部

## 1 策定の趣旨

今後の県づくりの方向性を共有するため、県民とともに策定する総合計画

- ・しあわせ信州創造プラン2.0（現行の総合5か年計画）策定後の社会・経済情勢の変化や新たな課題に的確に対応
- ・しあわせ信州創造プラン2.0の取組の成果を反映

## 2 計画期間

しあわせ信州創造プラン2.0（平成30年度～令和4年度）に続く、令和5年度から令和9年度までの5か年間

## 3 多様な意見の反映

## (1) 長野県総合計画審議会

- ・計画の基本的な考え方について審議（諮問・答申）
- ・幅広い意見を反映し策定するため、県内主要団体の代表者等により構成

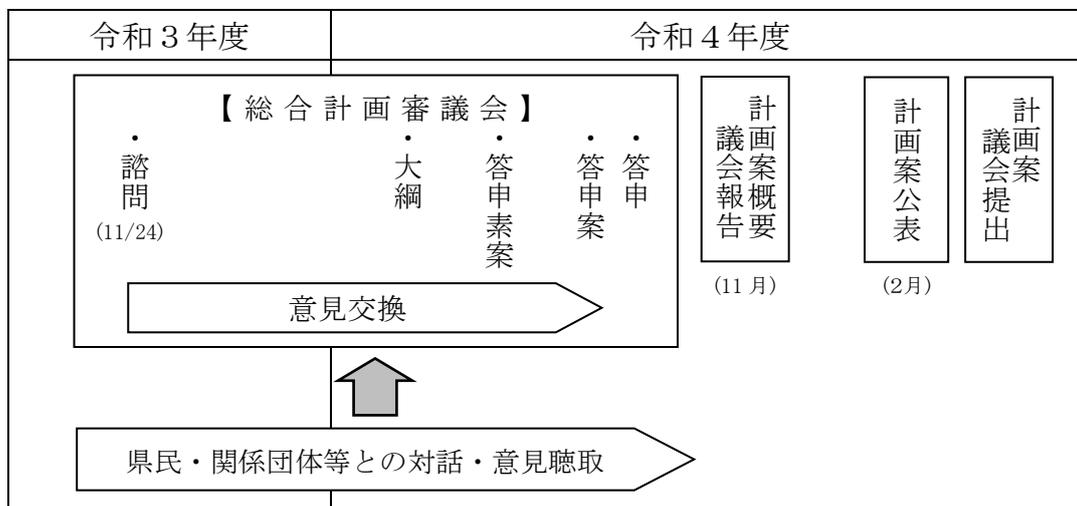
## (2) 県民・関係団体等

- ・若者や学生を含め多くの県民や関係団体等との対話や意見聴取の機会を確保
  - ・地域の課題や方向性については、地域振興局ごとに対話や意見聴取を実施
- ※ 5/11～6/9 拡大版地域戦略会議

## (3) 県議会

- ・「長野県基本計画の議決等に関する条例」に基づき、計画案の概要報告、議案の提出

## 4 策定日程（予定）



## 長野県総合計画審議会 委員名簿

令和3年（2021年）11月24日現在  
（五十音順、敬称略）

氏 名	役 職 名	任 期
安藤 国威 (あんどう くにたけ)	長野県立大学 理事長	2020.12.1～ 2022.11.30
牛越 徹 (うしこし とおる)	長野県市長会 会長（大町市長）	2021.6.22～ 2022.11.30
碓井 稔 (うすい みのる)	長野県経営者協会 会長	2021.6.22～ 2022.11.30
梅崎 健夫 (うめざき たけお)	長野県環境審議会 会長 （信州大学学術研究院（工学系）教授）	2020.12.1～ 2022.11.30
窪田 英一 (くぼた えいいち)	長野県私学教育協会 副理事長	2021.8.19～ 2022.11.30
神戸 美佳 (ごうど みか)	弁護士	2020.12.1～ 2022.11.30
近藤 誠一 (こんどう せいいち)	長野県文化振興事業団 理事長	2020.12.1～ 2022.11.30
竹重 王仁 (たけしげ きみひと)	長野県医師会 会長	2021.7.15～ 2022.11.30
武重 正史 (たけしげ まさし)	長野県農業協同組合中央会 専務理事	2020.12.1～ 2022.11.30
中條 智子 (なかじょう ともこ)	長野県連合婦人会 会長	2020.12.1～ 2022.11.30
中村 宗一郎 (なかむら そういちろう)	信州大学 学長	2021.10.1～ 2022.11.30
根橋 美津人 (ねばし みつと)	日本労働組合総連合会長野県連合会 会長	2020.12.1～ 2022.11.30
野原 莞爾 (のほら かんじ)	長野県観光機構 理事長	2020.12.1～ 2022.11.30
羽田 健一郎 (はた けんいちろう)	長野県町村会 会長（長和町長）	2020.12.1～ 2022.11.30
柳澤 玉枝 (やなぎさわ たまえ)	長野県介護福祉士会 顧問 （長野県社会福祉協議会理事）	2020.12.1～ 2022.11.30

# 次期総合5か年計画の構成イメージ（たたき台）

資料2

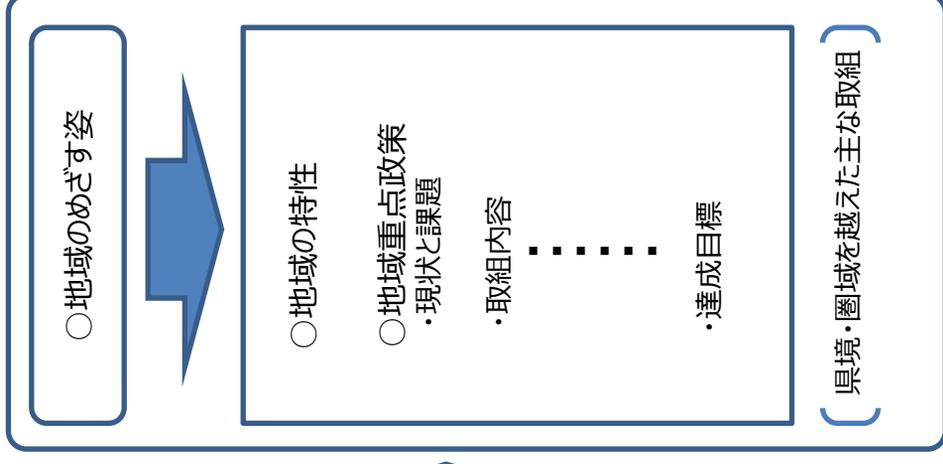
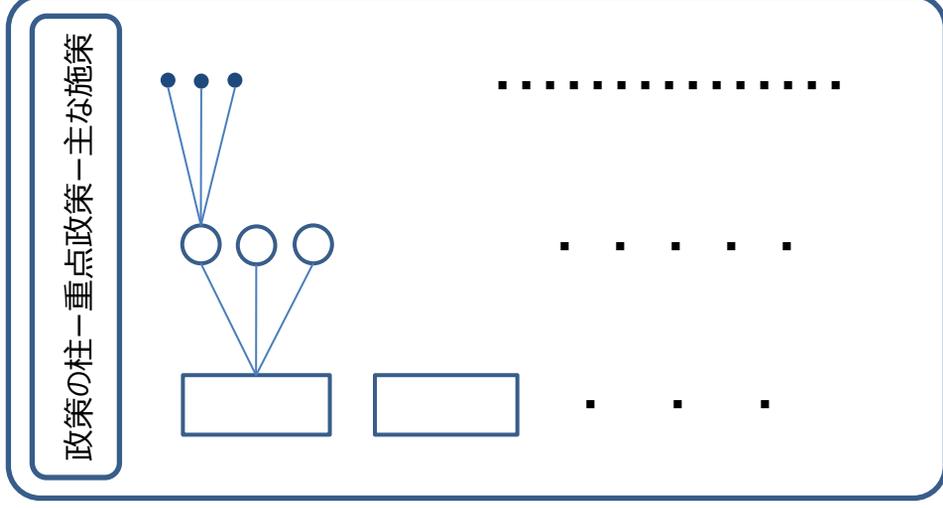
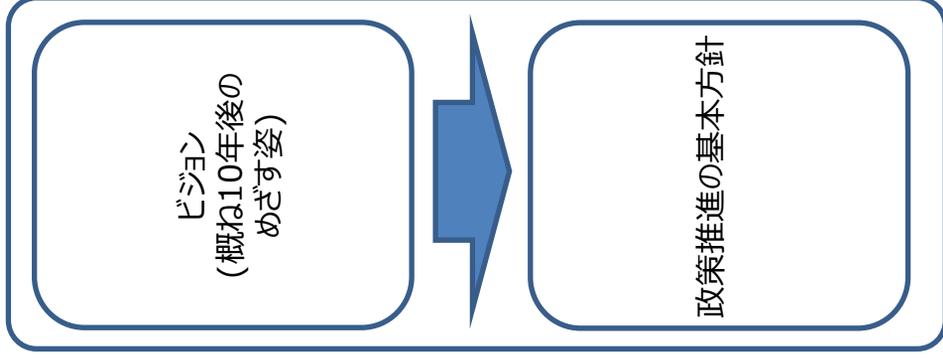
R4.4.26 総合政策課

【基本目標】

【ビジョン、政策推進の基本方針】

【総合的に展開する重点政策等】

【地域計画】



〔 重点プロジェクト 〕

政策推進の基本姿勢

ex. 信州の強み・地域の個性を活かす、世界に開かれた信州、県民起点・現場重視、協働・共創 など







本資料は、第2回総合計画審議会（R4.2.14書面開催）における委員ご意見ご意見を踏まえ、一旦の整理をしたものです。

### 時代の潮流と対応

少子高齢化

人生100年時代

VUCA時代

労働人口の流動化

ウィズ・アフター・コロナへの対応

新しい日常の再構築

デジタル変革(DX)

自治体や企業の「情報デジタル力」は大きな力

都市周辺地域の利便性の確保に力点

世界的な個人情報規制強化への対応

### 取組の姿勢

ポストコロナ時代の変革を担う若者、女性、県外／海外からの人材を中心に据える

信州の強みを活かす

それぞれの市町村が地域の特徴をいかんなく発揮

圏域ごとの文化・風土の特殊性や、77市町村の県民性、多様性

各地域の活力を生かしつつも、県としての総合力が発揮できるような取り組み

「人づくり」はすべての分野で長野県を支える肝

『学びの県』を標榜している長野県にふさわしい施策を

内向きにならないように世界に開かれた信州

グローバル(地域・日本と世界)

不転換の決意とアジャイルな実行

絶対価値の創造



# 次期総合5か年計画における「望ましい未来」と「取組の方向性」

<第3回総合計画審議会(R4.4.25)資料>

資料3-3

## 【行頭記号の凡例】

- ・：第2回総合計画審議会(2/14書面開催)の資料3の記述における委員意見
- ：信州これからの会議や県民との意見交換における意見
- ：信州これからの会議や県民との意見交換における意見

## 1 人口減少と少子高齢化の進行

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚・出産・子育ての希望がかなう</li> <li>●「結婚・出産・子育てを負担に感じない」社会</li> <li>・高齢者がいきいきと安心して暮らせる</li> <li>●ライフステージやニーズに応じた住み替えができ、より安心で豊かな生活が実現している</li> <li>・人口減少・少子高齢化の下でも地域や産業に活力がある</li> <li>●地域コミュニティが結び直され、平時から「顔の見える関係」が構築できている</li> <li>●多様な担い手が地域課題の解決に向けて協働できる仕組みが構築されている</li> <li>●自分の行動の交通手段が提供される</li> <li>○各地域に集落が点在するのではなく、中心となる集落に人が集まる</li> </ul>	<p><b>「特に分野横断的な取組が必要なもの」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 出産・子育て・教育・医療・介護の一貫支援</li> <li>● 子ども・子育て、介護を社会全体で支える仕組の構築</li> <li>● 「子育て・教育は信州で！」と思える社会・環境整備</li> <li>● 保育園、高齢者施設、図書館、体育館などが一体となった公共施設の整備</li> <li>○ 必要な機能を集約した“小さな拠点”を構築</li> <li>○ 今後の人口減少や集落の行く末を見据えて、公共施設の適正化・再配置</li> <li>○ 行政コストの可視化、生活インフラの集約、整備の順位付けを行いコンパクトシティを目指す</li> <li>● 少子化の流れを変える</li> <li>● 少子化対策の充実</li> </ul> <p><b>&lt;健康・医療・介護&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージ、ライフスタイルに応じた健康づくり</li> <li>・フレイル対策</li> <li>● フレイル対策、健康意識の向上、地域包括ケア体制の推進</li> <li>・医療提供体制（在宅医療、へき地医療など）</li> <li>・地域包括ケア体制</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産年齢人口の減少</li> <li>・医療サービス、介護サービスの需要増</li> <li>・社会保障費の増加</li> <li>・産業の衰退</li> <li>・技術・技能・ノウハウの喪失</li> <li>・コミュニティ機能の低下</li> <li>・伝統文化の喪失</li> <li>・地域の生活必需サービスの維持困難</li> <li>・交通空白地域の増加</li> <li>・買い物弱者の増加</li> <li>・管理不全となる土地や道路、農地、森林、学校等の増加</li> </ul>	<p><b>&lt;教育&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 幼児の非認知的能力の向上</li> </ul> <p><b>&lt;地域&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革による余剰時間を活用した地域活動</li> <li>● 新しい公共サービスの担い手として多様な人材が活躍できる働く機会を提供</li> <li>● 地域を支えるステークホルダーとともに地域づくりを担う形を共創</li> <li>● コミュニティ機能を補完するソフト・ハード対策</li> <li>○ つながる場の選択肢、新たなコミュニティを林立させていく</li> <li>● 地域力の強化</li> <li>● 伝統文化の活性化・継承</li> <li>● 地域の伝統・現代文化の社会的地位向上と発信強化</li> <li>○ 多岐に渡る地域活動の整理を行い最適化する</li> </ul> <p><b>&lt;社会基盤&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能で最適な地域公共交通ネットワークの構築</li> <li>● 住民の要望、利用率等地域にあった公共交通の在り方を検討</li> <li>● 休耕地、空き家の有効活用</li> </ul>

<結婚・出産・子育て>

- ・結婚・出産・子育てを社会全体で応援
- 出会いの場の創設
- 家から通える距離で出産できる環境

<雇用>

- ・働き方改革（ワークライフバランス）
- 熟練労働者の知識・技能を活かせる働き方の実現
- 女性の社会復帰のため、自分のスキルを上げる学び直しの場を提供

<産業>

- ・産業間の労働移動
- ・若手人材の育成・確保
- ・副業・兼業人材の活用
- ・高齢者人材の活用
- イノベーションを創発する若者／女性／海外人材の持つポテンシャルを發揮させるための環境整備による産業競争力の強化
- 意欲ある高齢者が活躍できる産業の創出、活躍の場の整備
- 多様性を力にしたイノベーションの創出に高齢者も
- ・中小企業の新陳代謝（事業承継・再編・創業など）
- IT人材のみならず、優れた技能・芸芸を尊重・継承する環境を実現
- 農林業の修学体験、企業化による就業者増
- 女性に限らず多様な人材が関わる農業
- 農林業のイメージアップ
- 農福連携（障がい者等が農業分野で就労・活躍）の更なる促進

## 2 気候変動対策や持続可能な社会への意識の高まり

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脱炭素社会、持続可能な社会</li> <li>● 気候の爽やかさが感じられる故郷</li> <li>● みながゼロカーボンを意識して行動する穏やかな社会</li> <li>● エネルギーの地産地消が実現している未来</li> <li>● シンカル経済が定着している未来</li> <li>● シェアリング・エコミーの進展</li> <li>● グリーンでディーセントな産業・雇用の創出と持続的成長</li> <li>● 気候変動対応やDXの進展をはじめとする経済・社会の移行期に生じる負のインパクトを最小化している</li> <li>● 多様な主体が連携し食・エネルギーが、地産地消で賄われている</li> <li>● 生態系のバランスの回復</li> </ul>	<p>「特に分野横断的な取組が必要なもの」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徹底的な省エネルギー</li> <li>・再生可能エネルギーの普及拡大</li> <li>・地元で作られた電気を使う企業が増える仕組みづくり</li> <li>・水資源の保全・利活用</li> <li>● 脱プラスチック</li> <li>● 地産地消の促進</li> <li>● 食料・エネルギー自給</li> <li>● 里山・農林業による食料・エネルギー自給の改善</li> </ul> <p>＜教育＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境教育の推進</li> <li>● ゼロカーボン社会を実現のための"教育"</li> <li>● サステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)のための高等教育機関</li> <li>● 皆が「環境大臣」になった環境活動</li> <li>● 省エネ、シカル消費</li> <li>● 衣服の在庫削減、有効利用</li> </ul> <p>＜社会基盤＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● バイオマス、小水力発電の推進</li> <li>○ バイオマス発電や地熱発電、水力発電等地域にとって一番適切な発電方法を普及</li> <li>・森林整備等によるCO2吸収量の増加</li> <li>● 森林の間伐</li> <li>・住宅・建築物のゼロエネルギー化</li> <li>○ 蓄電の仕組み</li> <li>○ 公共施設の更新に合わせて徹底した断熱や創エネに対応</li> <li>○ 災害時に地域で使える電力供給体制の構築</li> </ul> <p>＜産業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サーキュラー・エコミーへの移行</li> <li>○ 地域あるいは周辺で調達の仕組み（スモールサーキュラー）を作る</li> <li>● シェアリング・エコミーによる生産・所有・廃棄の減少</li> <li>● ゼロカーボンに向けた産業構造の転換</li> <li>● 食品業、林業など脱炭素先進地域として優位性を確立</li> <li>○ 「環境に優しい」農業の更なるアピール</li> <li>● 静脈物流の整備</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・甚大な人的・物的被害 → 3へ</li> <li>・観光、農林業などにおける被害の増大</li> <li>・ゼロカーボンへの対応の遅れによる産業の衰退</li> </ul>	

### 3 自然災害や感染症などの脅威

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の経験から学び、災害や感染症などの危機の際にいのちが守られる</li> <li>● 個々に自身の避難行動がとれる</li> <li>● 人々の生活、健康、医療、環境、福祉、農業、などの領域の生命にかかわる産業が発展している</li> </ul>	<p>「特に分野横断的な取組が必要なもの」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 再エネとリンクさせた防災対策</li> </ul> <p>＜公正・包摂＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害時の在留外国人保護</li> </ul> <p>＜健康・医療・介護＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次のパンデミックへの備え</li> <li>・医療提供体制の強化（医療機関の役割分担、医療従事者の確保など）</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・甚大な人的・物的被害</li> <li>・インフラの機能・性能の低下</li> <li>・パンデミックによる社会経済システムの機能不全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療インフラの充実</li> <li>● 医療体制は松本モデルを全県展開</li> <li>● リダンダンシー(冗長性)を持たせた医療体制</li> <li>● 災害時の保養所・旅館・民宿・ホテルの借上げ、個別スペースの設置</li> </ul> <p>＜教育＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童を含めた住民の防災教育の推進</li> </ul> <p>＜社会基盤＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模災害への備え、県土の強靱化</li> <li>● 県土の強靱化・耐震化推進</li> <li>・自然災害対策（ソフトの充実、デジタル技術の活用）</li> <li>● 思い切った投資</li> <li>● リダンダンシー(冗長性)を持たせた災害防止対策</li> <li>・インフラの継続的なメンテナンス</li> <li>● 応急・復旧対策の充実</li> <li>● 全員がマイタイムラインの作成</li> <li>● JR、NEXCO、電力会社等との逃げ遅れゼロに関する連携・情報共有</li> </ul>

#### 4 社会に存在する様々な格差

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢・性別・ジェンダー、障がい、生まれ、経済状態などに関わらず、誰にでも居場所と出番がある</li> <li>・県民一人ひとりの多様性やちがいを理解し、支え合いながら、個性や能力を活かしている</li> <li>・誰もが、それぞれに応じた機会やチャンスを持つ</li> <li>● 地域共生社会が実現している</li> <li>○ 複数の所属や居場所を持つ社会</li> <li>● 子どもから高齢者まで一人ひとりが大切にされる社会</li> <li>● 女性がいきいきと暮らせるジェンダーギャップの無い未来</li> <li>● 男女共同参画が進んだ社会</li> <li>● 若者が自らの可能性や個性を伸ばし地域社会で活躍している</li> <li>● 最も遠くに取り残されている方々に、第一に支援・サービスが行き届く社会が構築されている</li> <li>● 県民が相互に支え合い、自己実現に挑戦できるセーフティネットが組み込まれている活カあふれる社会</li> <li>● 一人ひとりの持つ力が十分に発揮していくことができる機会をつくり、社会参加につないでいる</li> <li>○ ダイバーシティの考え方として、女性、障がい者など、様々な形で参画してもらう</li> <li>● 誰もが公正で多様な働き方を通じて社会に参加でき、社会的・経済的に自立している</li> <li>● 安定し継続的な雇用関係が再構築された社会</li> <li>● 誰もが、差別されことなく、その持つ能力を最大限に発揮でき多様性を受け入れる職場・社会環境となっている</li> <li>● デイジーセントで持続可能な仕事への投資がされている</li> </ul>	<p><b>「特に分野横断的な取組が必要なもの」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生き方・働き方を支えるセーフティネットの充実</li> <li>● アウトリーチ型支援体制の構築</li> <li>● 共生社会の構築に向けた包括的支援体制強化</li> <li>・誰もが活躍できる場の創出（高齢者、障がい者など）</li> </ul> <p><b>&lt;公正・包摂&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 性差別の禁止、ジェンダー・バイアスの払拭</li> <li>● 障害やLGBTQ等 人権意識の醸成</li> <li>・国際感覚を持ったグローバル人材の育成</li> <li>● 専門家以外が便利に使える技術の優先開発</li> </ul> <p><b>&lt;教育&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リカレント教育、リスキリングの充実</li> <li>● 奨学金制度の拡充</li> <li>● 教育費無償化による教育機会の保障</li> <li>○ 学びの多様性と公平性を確保</li> </ul> <p><b>&lt;雇用&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革（ダイバーシティ、ワークライフバランス）</li> <li>● 最低賃金の引上げにより所得の二極分化を是正</li> </ul> <p><b>&lt;産業&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業・小規模事業者のDX</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格差の拡大、社会の分断の深刻化</li> <li>・貧困の連鎖</li> <li>・個人が生きづらい社会や地域、組織からの人材流出（特に、20代女性の社会減）</li> <li>・中小企業・小規模事業者の雇用、技術・技能・ノウハウの喪失</li> </ul>	

## 5 新技術・デジタル化の加速

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人とのつながりを大切にしながら、新技術やデジタルを活用して、誰もが質の高いサービスを享受している</li> <li>●技術革新により生活の質(QOL)が高まり豊かな生活が実現している</li> <li>●弱者ほどDXの恩恵を多く享受できる</li> <li>●技術革新の進展による果実を、広く県民や企業が活用できている</li> <li>●国と地方の垣根を越えた行政のワンストップサービスが進められている</li> <li>・新技術やデジタル活用により県内産業の競争力が向上している</li> <li>●付加価値の高い産業が存在する活力ある未来</li> <li>・いつでも、どこでも、誰でも学び直しができ、技術革新に伴う雇用環境の変化に適応した能力を身につけている</li> <li>●身近に操作を教わる人材がいる</li> <li>●気候変動対応やDXの進展をはじめとする経済・社会の移行期に生じる負のインパクトを最小化している</li> </ul>	<p><b>「特に分野横断的な取組が必要なもの」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる分野でのDX（デジタル化ではなくトランスフォーム）</li> <li>・デジタルデバイドの解消に向けた情報弱者支援（高齢者、障がい者、貧困世帯など）</li> <li>●デジタル・デバイドの解消</li> <li>●専門家以外が便利に使える技術の優先開発</li> <li>●ネットで容易に学べる仕組み</li> <li>・人的資本への投資</li> <li>・デジタル活用と並行したリアルな人と人とのつながりの重視（教育、医療・介護、福祉など）</li> </ul> <p><b>&lt;教育&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リカレント教育、リスキリングの充実</li> <li>●リカレント教育</li> <li>●情報デジタル人材の育成</li> <li>●高等教育機関における「情報教育の支援」の推進</li> <li>・個別最適な学びの実現</li> <li>○DX人材の輩出等について、大学、高専、高校など教育機関がコミット</li> </ul> <p><b>&lt;地域&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・条件不利地域の活性化</li> <li>○次世代モビリティの集落での共有</li> <li>●地域や自治体の大小による恩恵格差に配慮</li> </ul> <p><b>&lt;社会基盤&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自動運転・EV化の公共交通、物流インフラ対応</li> </ul> <p><b>&lt;雇用&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業間・職種間の労働移動</li> <li>●技術革新を雇用の創出につなげる</li> </ul> <p><b>&lt;産業&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●メデイカル、航空宇宙、ランドスケープ等の分野のリーダー県を目指す(予算措置も)</li> <li>・様々な産業におけるイノベーションの創出、新たな市場への参入</li> <li>●自治体や企業の「情報デジタル力」の強化</li> <li>●オンライン商談会・情報発信の充実</li> <li>・中小企業・小規模事業者のDX</li> <li>○AI、IoT、ブロックチェーン、ビッグデータのデータサイエンスなど自社だけで完結できない専門性は、共創の関係づくり</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らし、産業、行政などにおけるデジタル化の遅れ</li> <li>・情報格差の拡大</li> <li>・子どもの社会性や対人関係能力の低下</li> <li>・DXの対応に乗り遅れた企業の機会損失</li> <li>・IT人材不足の拡大</li> <li>・AIやデジタル化による雇用の一部代替</li> </ul>	

## 6 海外との関係の変化

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当たり前前に世界とつながり、県内でグローバルな社会経済活動が営まれている</li> <li>● 多文化共生社会の実現により世界から人材を惹きつけている</li> <li>● 言葉や文化やの違いを超えて信頼関係が結ばれる</li> <li>● 多くの外国人が定住し、訪れる未来</li> <li>・工業製品、農産物・物産、観光地が世界から選ばれている</li> </ul>	<p>＜＜特に分野横断的な取組が必要なもの＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 外国人受入体制の充実</li> </ul> <p>＜教育＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際感覚を持ったグローバル人材の育成</li> <li>● 幼児教育に始まる国際人材の育成</li> </ul> <p>＜社会基盤＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 松本空港の海外航路を拡充</li> </ul> <p>＜交流・連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光は事業者単位ではなく、歴史・文化・暮らし等をストーリーに、地域でブランディング</li> <li>● 観光サービス分野においては、広域DMOによる、そのエリアの歴史・文化に根差した長野県ならではの観光商品を創造し、観光県としての地位を確立</li> <li>● 姉妹都市などと定期的な児童・生徒の交流機会の創出</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解、国際感覚の低下</li> <li>・多文化共生社会への意識の低下</li> <li>・インバウンド客が他の国や地域へ流出</li> <li>・人権、環境問題に適応できない企業のサプライチェーンからの除外</li> </ul>	<p>＜産業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド復活を見据えた他国へのアプローチ（オンライン商談会・情報発信など）</li> <li>○ サプライチェーンを含めた産業の流れ・仕組みの見直し</li> <li>○ 県内でコンセプトを実証し、スケールアップしてグローバル展開</li> <li>○ 食糧安保に繋がる資源循環型農業の推進</li> </ul>

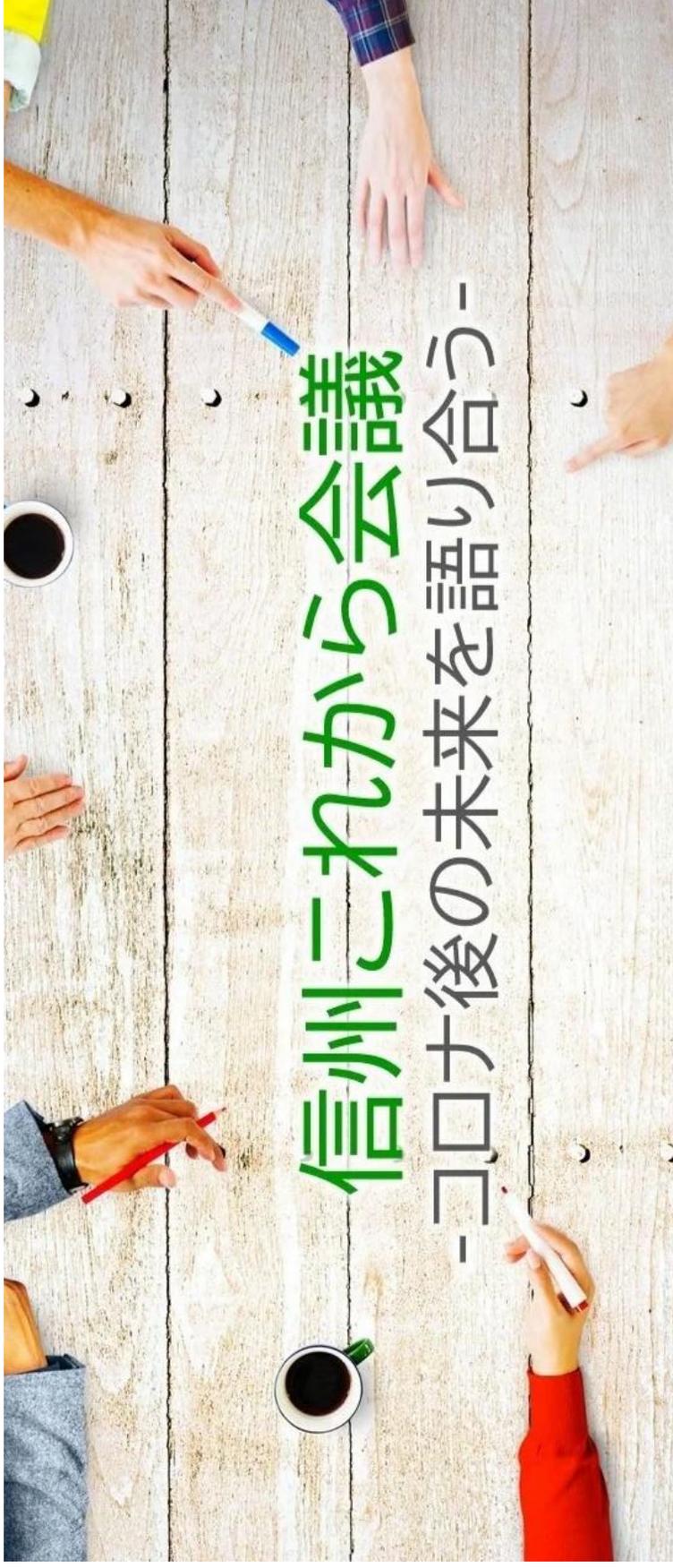
## 7 東京一極集中から地方分散への動き

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な魅力で人をひきつけ、本県に暮らす全ての人が希望するライフスタイルを実現している</li> <li>・本県と多様な関わりを持つ人が全国において、県内で地域の担い手として活躍している</li> <li>● 魅力あふれる地域づくりにより、本県への人の誘導が実現する</li> <li>● 東京一極集中からの地方分散</li> <li>・本県をフィールドとして選択する企業が増加している</li> </ul>	<p>「<b>特に分野横断的な取組が必要なもの</b>」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かさ、しあわせの発信</li> <li>● 働きやすさや暮らしやすさ、地域の魅力を効果的に発信</li> <li>● "豊かなくらしNo.1"の取組と発信</li> <li>● 「子育て・教育は信州で！」と思える社会・環境整備</li> <li>● 人、企業をひきつける条件、整備と仕組みの具体化</li> <li>・生活に必要な不可欠な医療、教育、交通などの基盤づくり</li> </ul> <p><b>&lt;教育&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な教育の充実</li> <li>● 産学官の連携強化やベンチャーの育成や大企業の研究施設誘致</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地方回帰」の流れを逸し、大都市圏のひと・企業から選ばれない</li> <li>・東京圏への人口流出が継続</li> <li>○ 県外に進学した若者にとって魅力的な職場が県内にない</li> <li>・スーパー・メガリージョン形成後の効果が限定的</li> </ul>	<p><b>&lt;地域&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然などの地域の特色をいかした、人や企業をひきつける魅力ある地域づくり（信州回帰プロジェクト）</li> <li>・賑わいのあるまちづくり（ウォーカーブルなまちづくり、グリーンインフラの導入）</li> </ul> <p><b>&lt;社会基盤&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路ネットワークの充実（コンパクトな拠点とネットワークの構築）</li> </ul> <p><b>&lt;交流・連携&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地方移住、二地域居住の推進</li> <li>○ 関係人口は、量ではなく質を重視</li> <li>○ 「好きな場所のひとつ」として選んでくれる人を増やす</li> </ul>

## 8 ライフスタイルや価値観の多様化

未来像	取組の方向性
<p><b>【望ましい未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性が認められる社会の中で自分らしさを追求できる</li> <li>○自身の暮らし、人生を、自らの意志で選んでいける社会</li> <li>・柔軟性に富み、変化を恐れない地域コミュニティ</li> <li>●多様な働き方・生き方が選択できる社会が構築されている</li> <li>●個人事業主が、自分のライフスタイルに沿った生き方ができる社会</li> <li>●文化芸術・スポーツとの身近で日常的なふれあい</li> <li>●文化・スポーツが暮らしに根付いている</li> </ul>	<p><b>「特に分野横断的な取組が必要なもの」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変化の時代を生き抜くための人間力を養う（子どもの非認知的能力、大人の学び）</li> <li>●不確実な未来に対応できる人間力</li> <li>○ライフステージの境界線を取り払う</li> </ul> <p><b>＜教育＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちの多様性を重視した「個別最適な学び・協働的な学び」へ転換</li> <li>○地域の接点から学校教育の現場も変化に対応</li> </ul> <p><b>＜雇用＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革（多様で柔軟な働き方）</li> <li>●自分のやりたい仕事の起業・創出</li> </ul>
<p><b>【起こりうる未来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人生100年時代の働き方、暮らし方の変化に対応できる人とできない人、多様な生き方を受け入れる地域とそうでない地域の二極化</li> </ul>	<p><b>＜産業＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性を力にしたイノベーションの創出（女性、若者、ベンチャー）</li> <li>○消費者の量的指向から質的指向への変化に対応する商品・サービスの提供</li> <li>○地域資源を活用して生産過程の質を付加価値に</li> </ul>





# 開催レポート

令和4年（2022年）4月

信州これから会議事務局  
(長野県 企画振興部 総合政策課)

新型コロナウイルス感染症の影響で、社会は一変しました。

多くの方々が、暮らし、仕事、親しい人との交流、趣味、子育てなど、様々な場面で、これまでとは違う日々を送っています。

この先の世界は、信州は、どのように変わっていくのでしょうか。感染症の収束後に迎える未来は、これまでの延長線上にあるものではないようです。

一人ひとりが見えているコロナ後の見通しを持ち寄り、未来を語り合うことを通して、みんなで「信州のこれから」を創造・共有し、来るべき未来を私たちのもとに手繰り寄せることをめざして、「信州これから会議」を開催しました。

県からの呼びかけで、若者からシニア世代まで様々な地域、分野で活躍する方々にお集まりいただき、立場や地域を越えてフラットに、それぞれの知識や経験を持ち寄りながら、「信州のこれから」について活発にご議論をいただきました。

オンラインを活用して延べ9回にわたり会議を開催。議論の結果を、総合ファシリテーターを務めた瀧内貫さんが中心となり、「信州のこれからへ向けた私たちのメッセージ」としてとりまとめいただきました。

参加者の皆さんがコロナ後の未来に向けて想いを込めたこのメッセージを、現在県が検討を進めている次期総合5か年計画等の重要な視点として、参考にしていきます。

## 開催概要

6つのテーマごとにグループを分け議論を行う第1段階と、第1段階で出されたキーワードを掛け合わせて設定したテーマを議論する第2段階の2部構成で進行了ました。第1段階の議論を各論、第2段階の議論を総論としてとりまとめました。

### 各論（第1段階）

#### テーマ・実施日程

	テーマ	1回目	2回目	3回目	時間
A日程	①働き方・暮らし方	11/7 (日)	11/21 (日)	12/12 (日)	午前10時～正午
	②文化・スポーツ				
	③地域コミュニティ				
B日程	④福祉・子育て	11/10 (水)	11/24 (水)	12/15 (水)	午後7時～9時
	⑤産業				
	⑥学び				

#### 開催方法

オンライン

#### 参加者

クリエイター、教育関係者、医療・福祉関係者、行政職員、エンジニア、地域おこし協力隊員、学生等、公募に応じた55名

### 総論（第2段階）

#### テーマ

第1段階のキーワードを分野横断的に掛け合わせてテーマ設定

「これからの地域社会の編み方」 × 「これからの豊かさ、しあわせをどう実現していくか。」  
「これからの暮らし（人生）のレジリエンス」  
「これからの支援する人をどう育てるか」

#### 実施日程

令和4年1月16日（日）、1月30日（日）、2月13日（日） 計3回

#### 開催方法

オンライン

#### 参加者

第1段階の参加者のうち有志18名

#### 総合ファシリテーター 瀧内 貫 氏



株式会社コトト 代表取締役のほか、ミリグラム株式会社 取締役、  
長野県立大学 ソーシャル・イノベーション創出センター(CSI)  
地域コデーネーター。（令和3年度当時）

各テーマにおけるファシリテーターは、若手県職員が務めました。

# 信州のこれからへ向けたわたしたちのメッセージ

わたしたちが暮らす「地域」や「社会」は、コロナ禍により急激に変化しています。その変化により、見えていなかった分断が見えるようになりました。

わたしたちは、視野を広げ、重なりを意識し合い、掌（て）にあるはずの物事を持ち寄って、対話することで、文化や意味を紡ぎ、分断された地域社会を編み直していきたいと願います。

地域社会は、誰かにつくってもらうものではないはず。わたしたち自身が、手を携えて、信州の「これから」を探求していきたいと思っています。

信州に暮らす、これからの「しあわせ」とは何か。  
問い続け、わたしたちの手で実現していく。

- ① わたしたちの「真のしあわせ」を問い続ける。  
それぞれに気持ちの良い暮らしやあり方を探求していく。 (→P6)
- ② 社会的包摂から寛容な地域社会をつくる。  
トライアンドエラーを許容するしなやかな関係性を構築していく。 (→P7)
- ③ コロナ禍により、一層顕在化した分断に橋を架ける。  
間（あいだ）をつなぎあわせ、共に支える地域社会を創造していく。 (→P8)
- ④ つながる場の選択肢、新たなコミュニティを林立させていく。  
それぞれが複数の所属や居場所を持つ社会へ。 (→P9)
- ⑤ 小さな対話をたいせつに。  
関係の編み直しから、ソーシャルキャピタルの構築へ。 (→P10)

## ① わたしたちの「真のしあわせ」を問い続ける。 それぞれに気持ちの良い暮らしやあり方を探求していく。

多様性や包摂性に加え、公平性から、さまざまな「豊かさ」や「しあわせ」の尺度が混ざり合う社会をつくる。それぞれが「しあわせ」を追い求め、自身の暮らし、人生を、自らの意志で選んでいける社会を実現していく。

### 議論の経緯

これからの「しあわせ」や「豊かさ」のあり方について、「選択肢があること」、「自分の人生をコントロールできていること」、「しんどくない範囲で地域社会に貢献できていること」などといった、自分の人生を自己決定できていることや、他者や社会との双方向の関係性があることなど、物質的、経済的な豊かさにとどまらない様々な意見が出されました。さらには、「しあわせ」や「豊かさ」のあり方は人それぞれ違ってよく、価値観の多様性が認められ、一人ひとりが公平にそれらを探し求めていけることが当たり前にできる社会を実現していくことが大切、との意見が出されました。

## ② 社会的包摂から寛容な地域社会をつくる。 トライアンドエラーを許容するしなやかな関係性を構築していく。

急激な変化のある社会の中で、さまざまな価値観の相違が、結果的に多くの分断を生んでいる。多様性を認め合い、小さな挑戦や、失敗を含む試行錯誤が許容される「寛容でしなやかな」地域社会をつくっていく。

### 議論の経緯

「みんなが当たり前と思っている人生コースが強固すぎて、色々な人生ルートが許容されていない」  
「何かにチャレンジするときに、『レールから外れる不安や恐怖』が足かせになっていて、試行錯誤がしづらい」  
「試験の1点の差で人生が変わってしまう。一度の失敗で著しく不利な人生を歩まざるを得ないのが今の社会」  
など、特定の価値観や成功のモデルから外れたときに、再チャレンジすることが困難な社会の姿を変えていく必要があるとの意見が出されました。

その上で、

「学校の成績などにとられない『評価軸の多様性』が社会に広まっていくことが大切」

「『ごちゃまぜ』な環境があると、違いが当たり前になる」

「『失敗はいけないうこと』という認識が浸透してしまっている」

「学校に行かない選択をした子どもや、会社を辞めてもう一度学んでみようと思う大人などへのサポートが必要」といった、多様な価値観を認め合うことや、自己実現に向けた前向きなチャレンジに寛容さと公正な支援が必要との意見も出されました。

### ③ コロナ禍により、一層顕在化した分断に橋を架ける。 間（あいだ）をつなぎあわせ、共に支える地域社会を創造していく。

コミュニティを横断しセクターを越えて、つながる橋とそのつなぎ手が必要とされている。それぞれに「個」を尊重し合うことを立脚点に、多世代や地域内外をつなぎ、「これから」の地域を編み直していく。

#### 議論の経緯

新型コロナウイルスの感染拡大によって、前例踏襲で行われてきた地域におけるさまざまな慣例やしきたりが合理化された一方、「地域のコミュニケーションの場がなくなった」、「移住者が地元の人と交流できず孤立している」、「感染を警戒して、助けたい人を助けに行けない」といった、孤立や分断がより一層顕在化した、との声がありました。「しんどいことをアウトソーシング」してきた、これまでの社会の結果ともいえるが、これからの社会では、「ミツバチのように色んな所を飛び回って、人と人とをつないでくれる人」や異なる価値観や言葉遣いを「翻訳する人」がいると、多世代や地域内外の交流も促され、新しい関係性を編み直せるのではないか、という意見が出されました。

## ④ つながる場の選択肢、新たなコミュニティを林立させていく。 それぞれが複数の所属や居場所を持てる社会へ。

今ある所属や地域の居場所、趣味や興味関心からコミュニティなど、ゆるやかなつながりや多くの所属を持てる社会をつくる。一人ひとりが関係性のなかで感じられる「しあわせ」を持って、地縁のコミュニティと互いに良い影響を与えていく。

### 議論の経緯

「一人ひとりが自分らしい生き方を実現できる社会の姿」について話し合われた場では、「すべての人が何らかのコミュニティに属することができる」とよい、「興味・関心や大事にしている価値観でつながる『テーマ型コミュニティ』がたくさんあるとよい」との意見が出されました。

そうしたコミュニティのあり様としては、

「それぞれの負担、犠牲が必要ながりはあまりよくない」、「自主的なつながりがいい、離脱してもOK」といった、「ゆるやかなつながり」が望ましいとの声がありました。

また、地縁のコミュニティも軽視することなく、個人が「テーマ型コミュニティ」と「地縁型コミュニティ」を行き来することによって、両者に良い影響を与えていくことも大切であるとの意見も出されました。

## ⑤ 小さな対話をたいせつに。 関係の編み直しから、ソーシャルキャピタルの構築へ。

違和感を声に上げ、対話し続けることを厭わない。対話と観察から、複雑に絡んだ関係性をほどこき、編み直していくことを繰り返す。  
対話と実践の場の往復から、信頼と互恵の関係性を組み上げていく。

### 議論の経緯

多様性を認め合う社会をどう実現していくか、という点について話し合う場では、「話し合いが基本だが、無理してわかり合おうとすると逆に分断が起きるリスクがある」「『多様性を認めること』と『分かり合うこと』を両立するのは難しい」との、対話の難しさを指摘する声がありました。が、「困っていることや違和感を覚えることについて声を挙げやすい社会であってほしい」「たとえ相手の意見が自分と違っていても、相手が何故その考えを大切にしているのかを知ることが重要」「小さなコミュニケーションの中で、対話を積み重ねていくことが大事」といったような、対話の積み重ねによって、信頼と互恵の関係を作り上げていく努力を厭わないことが大切、との意見が出されました。

現状認識（コロナで変わったこと）

① コロナを経験してわかったこと

時間や場所に縛られない働き方・暮らし方が普及

オンラインツールの普及により、テレワークが当たり前になってきた。また、コミュニケーション形態が多様化し、時間や場所に縛られない関係性が生まれてきている。一方で、リアルなやり取りや経験に対する価値観が変わってきており、目的や相手に応じたベストな対応が求められている。

② 新たな日常に向け工夫したことでわかったこと

変化する社会、多様な生き方を受け入れる地域と変わらない地域が二極化

多様な働き方・暮らし方を認め、魅力ある地域を発信している地域へ人が集まってきている。コロナ下で選ばれる地域、改めて住み続けたいと思う地域になるためには、地域としてどうあるべきか。

変化する社会に対する対応力に差が生じている

急激な社会のデジタル化への対応力に個人差が生まれた。情報格差が激しくなり、個人によって行動を選択できる幅が異なっている。

働き方・暮らし方のこれから

この地域で生きていく幸せを考え続ける。  
生き方を再定義し、「働き方・暮らし方」を選択できる地域社会へ。

① 常識を変革し、多様性を認め合う社会へ。  
働き方をアップデートする。

変化する社会の中で、常識にとらわれない多様な働き方を実践する人が増えている。自分の好きなことを生業にする人、1か所にとどまらない働き方を実践する人。それぞれが「本質的な幸せ」を考え、自分に合った働き方を追求し続ける。

② 多様性から、職住が「接近」している。  
「境目のない暮らし」を、新しいライフスタイルの選択肢として定着へ。

家事、育児、仕事、介護、娯楽などの境界線を取り払い、一人ひとりが自由に暮らしをデザインする。従来の「ワークライフバランス」の枠組みにこだわらず、自分らしいライフスタイルを築く。

③ それぞれが、働き方・暮らし方の「実践」を発信。多様なチャレンジを信州から。

多様なスタイルを認め合い、支援する社会の実現を目指す。それぞれが多様なチャレンジを踏み出し、県内外へ発信。Try&Errorを恐れない社会へ。

## 現状認識（コロナで変わったこと）

## ① コロナを経験してわかったこと

不要不急とされたが、生活の豊かさを彩る大切なもの

文化・スポーツはコロナ下では不要不急とされた。しかし、人と人を繋げ、生活を豊かにするために不可欠であると再認識。

一流の芸術に触れる機会がなくなった

もともと信州は大規模・著名な文化・芸術に触れるための施設や機会が少ない。移動制限で一流の芸術が県内に来なくなることにより、一流に触れる数少ない機会が失われている。芸術レベルの底上げがますます遠のいている。

## ② 新たな日常に向け工夫したこととわかったこと

オンラインでは代替できない価値がある

オンラインによりイベント等が代替されたが、質感や空気感は伝わらず、共感も生まれにくい。また、観客の反応を感じられず作品や技術も向上しない。本物に触れ、場を共有することの価値が際立った。

足元の価値を拾う中で、地元と相互に影響を及ぼし合う

地域でアートが開かれるようになり、地域資源を活かした取組みが活発になった。外からアイデアをもらい、地域は、これまで気づかなかったその土地の新たな価値を認識する。一般協力者や参加者が生まれる。

**「文化・スポーツ」は不要不急ではない。本来の価値から、共感と交流が生まれていく未来へ。**

## ① 文化・スポーツが暮らしに根付く社会を自らの手で。地域に暮らす自分たち自身が、街の文化を耕していく。

住民が地域にある文化やスポーツに興味・関心を持ち、一流でもカジュアルでも、すべてのプレーヤーが混じり合う社会。地域性や業界の垣根を超えて、街全体がアーティストやアスリートを支え、多様な文化やスポーツが暮らしにあふれている社会へ。

## ② 特異な才能と「出会える」地域に。あたりまえに活動できる環境と自然に交流できる状況をつくる。

どんなジャンルの一流でも不自由なく活動でき、技を高められる環境を整える。ロールモデルの彼ら彼女らがあたりまえに混じり合っている社会では、住民との交流も生まれ、後継者となりうる次世代の子どもたちを育てていく。

## ③ 文化・スポーツに触れる「タッチポイント」を増やしていく。多様な繋がりをつくる「繋ぎ手」を育てていく。

プレーヤーと受け手の両側の本音を知り、共通点を見つけ、双方向に良い影響を及ぼせるような仕掛けを作る存在が重要。一流とカジュアル、文化と文化、プレーヤーと受け手、都市と地域等、さまざまな繋がりを見つけ、支える存在に。

現状認識（コロナで変わったこと）

① コロナを経験してわかったこと

前例踏襲への問い

前例踏襲でやってきた地域活動の必要性を立ち止まって見直す機会になっている。

コミュニケーションが生まれるきっかけに気づく慣例的な集まりが無くなり、楽になった一方で、そうしたコミュニケーションの場が深い人付き合いを生んでいたことに気づいた。

移住者の孤独

コロナによって若者や移住者が増えているが、地域とのコミュニケーションがうまく取れず、孤独を感じている人もいる。

② 新たな日常に向け工夫したことでわかったこと

画一的な行政サービス

地域の助け合いは普段以上に緊急時にその真価が発揮されるが画一的な行政サービスが代行するようになり、取りこぼしが起きている。

地域コミュニティのこれから

「地域コミュニティのありかたを考えていく。  
これからの地域の「再定義の状況」を  
どう迎えるか。」

① 地域を繋ぐ「交流を生む装置」と「通訳者」があふれる地域コミュニティへ。

地域の共通言語や駄菓子屋・フリーマーケットなどの人が集まる場のような「交流を生む装置」。住民同士を繋ぐ「通訳者」。これらを地域内で溢れさせる。

② 一人ひとりが地域に関わりを持ち、自らが地域コミュニティを再構築していく状況をいかにつくるか。

行政が画一的に管理する領域でもなく、私的な領域でもない、そこに住む「みんな」で支えていく領域を、いかにして住民の主体性によって再構築していきけるかが問われている。

③ 柔軟性に富み、変化を恐れない地域コミュニティとは。持続可能な地域のあり方を問い続ける。

移住者、若者、高齢者などの多様な価値観が混在する中で、一人ひとりの違いを受け入れ認め合うことで、居心地のよいコミュニティをつくっていく。

## 現状認識（コロナで変わったこと）

## ① コロナを経験してわかったこと

## コミュニケーションの分断が加速、社会的孤立が顕在化

「自分がコロナに感染したら周りが大変なことになる」という意識から人との交流を控え、助けたい人を助けられない状況が生まれた。コミュニケーションの分断が加速し、もともとあった社会的孤立も顕在化した。

## ② 新たな日常に向け工夫したこととわかったこと

## オンラインという新たな選択肢とIT格差

オンラインで会えない人とコミュニケーションがとれたり、新たな事業やサービスが提供できるなどのポジティブな変化があった。子どもの発達面ではマスクによるコミュニケーションの制限から悪影響も懸念されるが、オンラインで遠く離れた友人につながることができするなど、良い面もみられている。一方で、どうしてもITについていけない人との格差やそもそもオンラインツールを使いたくない人がある等、個人の経験や価値観による生き方への多様な対応が求められている。

## オフラインの重要性

体験学習などの経験や、その人が本当に必要なとしている支援を把握するためにはオフラインが必要である。

## 多様性を認め合い、誰一人として取り残さない、それぞれの自己実現ができる社会を目指していく「福祉・子育て」へ。

### ① 情報発信と共有の充実から、持続可能性や相互理解など複眼的視点を持って、社会的包摂の場を組み上げていく。

コロナにより変化するスピードが増した社会の中で、個人を取り巻く環境はより複雑化が進んでいる。地域内の環境を観察し、異なる個人の方を知り合うこと。個別性、多様性を尊重し、積極的な環境整備、場づくりに関わっていく。

### ② つながり方の選択肢を増やし、誰でもいつでも社会参加できる仕組みをつくる。

コロナ禍で、近所のお茶飲みや子育て支援センターでの交流など、情緒的な豊かさを支えていた日常でのつながりが薄れた。社会参加のツールであるオンラインサービスへのサポートをきっかけに、今後また訪れるであろう急激な変化のなかでも、個人の希望に沿ったつながり方を選択でき、社会参加できる仕組みを、協働により実現していく。

### ③ 主体的で個別性のある「しあわせ」を起点に、双方向で、心地よいお互い様の関係性が広がる社会へ。

高齢者支援、障がい者支援、子育て支援等の専門性の上に、1人の人間として助け合う双方向の関係性を構築できれば、個人と社会の「幸せ」の実現につながっていく。

現状認識（コロナで変わったこと）

① コロナを経験してわかったこと

消費者の需要が量から質へと変化した

パッケージ型の「大量生産・大量消費」が通用しづらくなり質的な付加価値をもったカスタム型へ注目が高まった。観光においては人気スポットへの大量集客が難しくなり、地域内・少人数での旅行が注目されるようになった。

大規模を追わず、ターゲットを絞っていた企業は打撃が少なかった

多くの人に人気なわけではないが、ターゲットを絞り、強い結びつきのある顧客を獲得していた事業者は、コロナ下でも顧客があまり離れず、打撃が少なかった。

② 新たな日常に向け工夫したことでわかったこと

変化に対応できた事業者とできなかった事業者に分かれた

感染拡大から2年近く経過したが、緊急対応後に今後の戦略を考え、変化に対応しようとした事業者は比較的打撃が少なかった。

時代も環境も変化が予測できない社会に。

レジリエントな「産業」の稼ぎ方とは。

① 量から質への転換により「刺さる」サービスを。生産過程の質を付加価値に。

多くの人の興味を引くことを狙うのではなく、他者と競合しない個々の強みをそれぞれが見つけ、狙ったターゲットに深く刺さるサービスを提示する。独自の地域資源を活用して生産過程の質を付加価値にする。決して大きくないが個性的な取組みを知らせ、享受者とながら媒体として、オンラインを使いこなしていく。

② 地域やセクターを超え、多様な関係者を巻き込み、その組み合わせから強くしなやかな地域産業を構築していく。

農林業者・観光業者・住民など、地域を題材として多様な関係者を巻き込み協力しあう。地域に根ざした事業者による新しく個性的な取組みと豊富なノウハウを活かしてスケール化・持続化できる事業者との組み合わせから、健全な競争関係を構築し、状況の変化に対応できるしなやかな産業をめざす。

③ 一時的な動きだけでなく「その先」を見通すチカラを養う。

コロナ収束後、一時的に需要のリバウンドが想定されるが、単純にそれに合わせて人材や物資を確保すると、需要が収まった際に供給過多となる。また人口減少は悲観的に語られることが多いが、それが追い風になる業界があるのも事実。あらゆる産業の従事者は、需要の大小に関わらず長期的に物事をとらえ、柔軟な戦略を立てることができ「視座を養う」ことが重要。



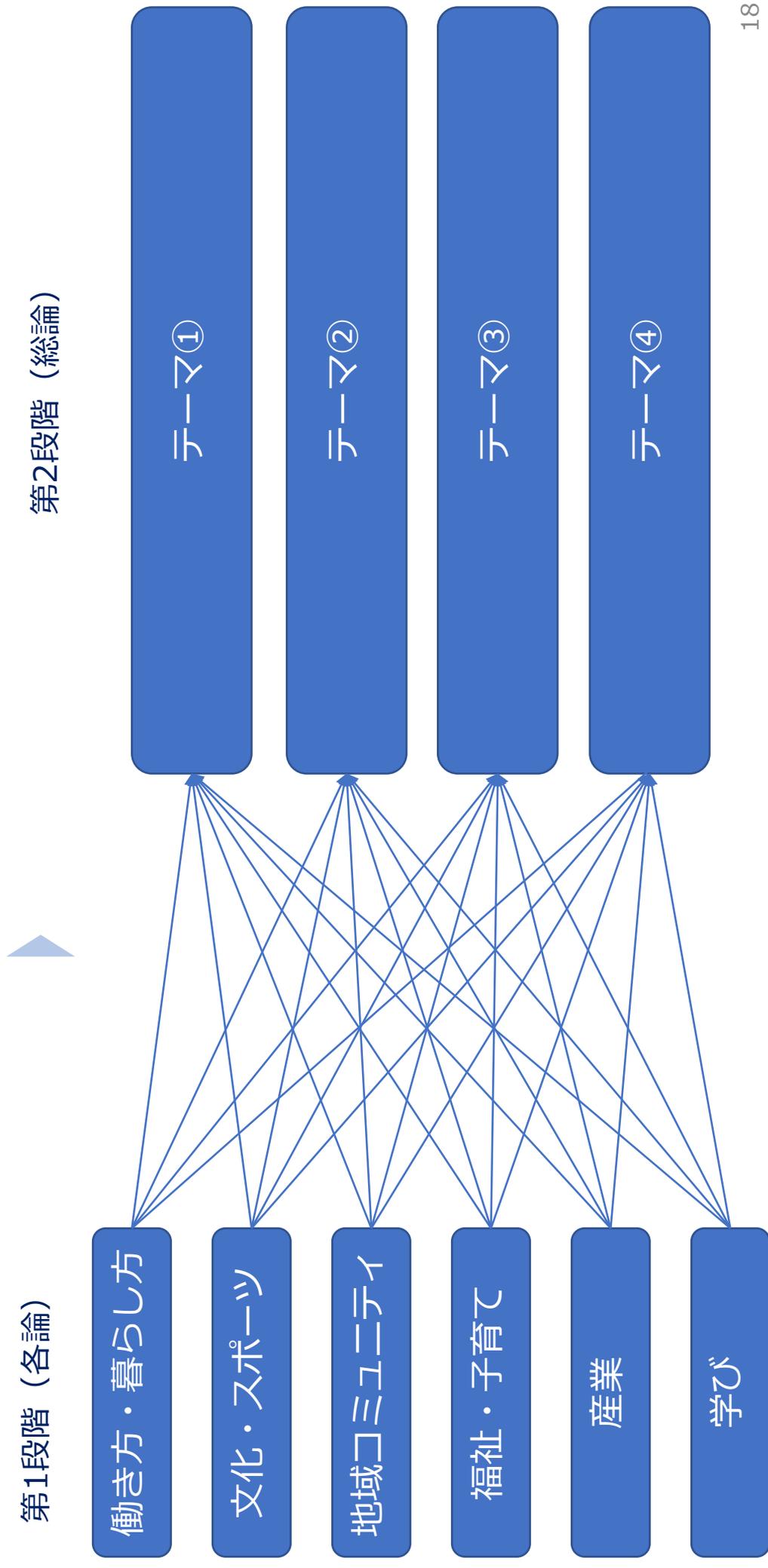
# 信州これから会議開催レポート

## 参考資料

- 議論のプロセス
- 第1段階（各論）
  - 議論の進め方
  - 議論の経緯
  - 参加者の行動宣言
- 第2段階（総論）
  - テーマ設定
  - 議論の経緯
  - 参加者の行動宣言

## 議論のプロセス 具体から抽象へ

第1段階では、新型コロナウイルスの影響により大きな変化が起きている6つの分野についての未来像を語り合い、その議論の過程において出されたキーワードを分野横断的に掛け合わせて設定したテーマを、第2段階で深めました。



## 第1段階 議論の進め方

### 第1回

コロナ下の変化について  
コロナでどう変わったのか、どう変わっていくのか。  
→ 抽出・発散する

### 第2回

その変化をプラスにもっていくために、  
何が必要でどうチャレンジするのか。  
→ 集約する

### 第3回

まとめの確認  
自身がどう関わっていくのか。  
→ まとめる

# 第1段階 「働き方・暮らし方」

## 議論の経緯

第1回 11月7日（日）、第2回 11月21日（日）、第3回 12月12日（日）

ファシリテーター  
石井貴広  
横山紗央里

場所や時間に縛られない働き方、暮らし方が普及するなか、これから私たちは「どう働き、どう暮らすか？」  
「本当の豊かさとは何か」を対話の中から探りました。

### 第1回 「コロナ下での働き方・暮らし方の変化とは？」

在宅勤務やフレックスタイムなど、働き方の環境整備が進んだ

オンラインは便利！移動がないし、会議がしやすい

コロナが、働き方、働き方を再定義するチャンスになっている  
地方移住にもつながっている

働き方の多様性を認め、選べる環境を作っていく必要がある

本質的な幸せに気づいた人が多い。コロナに対応できる人はますます地方を移動するだろう

あの地域の、あの人に会いたい、という関係性づくりができるかどうかにかかっている

#### POINT

- 働き方・暮らし方の多様性が増した。オンラインとリアル、どちらにも良さがあり、選び取ることが大事。
- 働き方・働き方を再定義するチャンスに。再定義し続けることが大事に。
- 人それぞれ幸せを追求する中、地域は、変化に対応できているかどうかで差が生まれている。

### 第2回 「新しい暮らし方、働き方とは？ どうやったら実現できる？」

特徴的な働き方・暮らし方をしている人の事例を発信してはどうか

挑戦している人たちのとんがった取組を後押しする必要がある

働き方・暮らし方を変えたくても生活や会社の都合で変えられない人もいる

社会的な制約のために行動を起こせない人もいる  
ルールを変えていかなければ

やってみる場をつくる  
やればできるし、やらないとできない

オンラインを使いこなせない人たちのために、できる人たちのコミュニティの輪を少しずつ広げる

#### POINT

- 新しい暮らし方、働き方を発信、実践する。とんがった事例を集める。
- 個人で変えられない部分はある。制度の変化は必要。組織にも働きかける。
- 挑戦している人同士のコミュニティの輪を拡げていく。

### 第3回 とりまとめ（案）に対する意見交換

変化しないといけないニュアンスに感じる  
変化したくない人の考え方も含めるべき

変わらないことを選択することがリスクであるのも事実  
情報として知ったうえで変わらなない選択をすることが必要

ロールモデルとまでいなくても、小さい事例や失敗例も含めた情報発信が大切

ロールモデルはすでに成功している感じがある  
そのままではなく、多様なチャレンジ、多様な一歩をみたいな表現の方がいい

考え始めて、考え続けるのが大事  
トライ&エラーしよう

個人でいろいろなどころに出向く人は選択肢に出会う可能性が高い。出会うためにはチャレンジし続けることが大切

#### 働き方・暮らし方のこれから

**この地域で生きていく幸せを考え続ける。**  
**生き方を再定義し、「働き方・暮らし方」を選択できる地域社会へ。**

→詳細はP11

# 第1段階 「文化・スポーツ」 議論の経緯

第1回 11月7日（日）、第2回 11月21日（日）、第3回 12月12日（日）

ファシリテーター

大日方美穂  
矢作郁留

コロナ下ではイベントが軒並み延期や中止に。芸術、エンタメ、伝統文化、スポーツの価値、醍醐味とはなにか。対話の中から探りました。

## 第1回 「コロナ下で創作活動やイベントなど文化スポーツはどう変化したか？」

文化イベントやスポーツ等が不要不急のものとして扱われたことには納得はする

しかし文化・スポーツイベント等は人と人を繋げてくれるもの 無くなってしまおうと心が落ち込んでしまおう

オンラインで国内外の作品を見るチャンスが増えることで、「高尚なもの」から「身近なもの」に変化した

地元によりフォークラスした創作活動・舞台芸術が増えた

リアル（実物）だからこそ感じられる作品の質感や凹凸、雰囲気は大事にするようになった

アートとまちづくりの担い手の境界線がいまいになっっている

### POINT

- 文化やスポーツは心の豊かさのために必要。
- オンライン鑑賞等の導入により客層や集客エリア、心理的な距離に変化が生まれている。
- オフラインは提供側として価値の見直し（改めてリアルでやる意味）を必然的に求められる。臨場感など、オンラインで得られない価値も再認識された。

## 第2回 「文化・スポーツの役割とは？ これから必要なことは？」

文化スポーツの持つ「豊かさ」は、人々との交流を形作るもの、多様な価値観に触れることができること、感情を共有できることにある

アーティストが地域に根差した活動を行うことで、地域の人たちが新たに文化・スポーツのプレーヤーになっていく

そうすることで文化やスポーツをきっかけに街を耕していく（ハードルを下げる）ことになると思う

アートやアーティストを丁寧に集めて、地域の人達になるべく良いものとして提供していくということに今後チャレンジすべき

ロールモデルによって輪が広がることに繋がりが、個人を高めることにも繋がる

それらを繋げる・広げる役目の人がいると内輪だけのものにならないと思う

### POINT

- 文化・スポーツが信州の暮らしに根付いていくために、裾野を広げていく。
- トップレベルを身近に体験できる環境が必要になってくる。
- 文化スポーツを通じて繋がっていただくためのサポートをどうつくっていくか。官民を越えた仕組みが必要となっていく。

## 第3回 とりまとめ（案）に対する意見交換

「つなぎ手を育てていく」は特にやっつけがな過ぎやと思う。「つなぎ手」の重要さを認識した。

スポーツも文化も、全然関係のない人には関係がない。そういう人たちも含めて社会。

プレーヤーに対する「すごいね」という言葉は、一見応援しているようで、他人事として受け止めているように感じる

色々なグラデーションのプレーヤーがいる社会が実現していれば、すごいねと言われないのかなと思う。

「認め合う」というよりは「混ざり合う」。まずはそこから。

移住者などによる、歴史的文脈や経緯を踏まえないリノベーションはうまくいかない。地域の人たちと話をし、地域を知ること

### 文化・スポーツのこれから

**「文化・スポーツ」は不要不急ではない。本来の価値から、共感と交流が生まれていく未来へ。**  
→詳細はP12

# 第1段階 「地域コミュニティ」議論の経緯

第1回 11月7日（日）、第2回 11月21日（日）、第3回 12月12日（日）

ファシリテーター  
中沢一貴  
森山佳祐

コロナ下で寄合や祭礼等の中止で地域のつながりが希薄に。これからの地域コミュニティはどうあるべきか？

## 第1回 「地域コミュニティはコロナ下でどう変化したか？」

付き合いがシンブルになり、深い付き合いがなくなかった。葬儀も簡略化されている。今後の標準になっていくのではないかな

付き合いをどこまで繰引きするか。ただ地域で支えていたものが成り立たなくなると弊害も出てくる・出てきている

地縁関係の希薄化が進み、孤独となつていく住民をコミュニティとしてどう向き合っていくか？

地域の繋がりをベースとしたコミュニティが必要に思う。そうしたものが居場所や安心感になっていく

移住者は地域のことから分らず、孤立感がある。キーパーソンを見つけないのが大変。気軽に立ち寄れる拠り所があるとうい

自分たちで地域コミュニティの中で必要なものについて取捨選択、維持・形成していくかを考えていく必要がある

### POINT

- 会えないこと＝「人付き合い」の形の変化が生まれている。これまでの地域での務めが変化。
- やらないことで楽に、ではなくどう担っていくかが大切。その変化により、入ってくる人たちにしても「いいこと」（入ってきやすさ）が生まれている。
- 誰にとつても居心地が良く、安心につながる場づくりについて考えていく必要がある。

## 第2回 「これからの地域コミュニティのあり方・担い手の役割とは？」

共通の話題（田植え等）や寄り合いからコミュニケーションが生まれていた。不便さが、むしろ人と人との繋がりを生んでいた

地域の困りごとをシェアして、足りないものを補う、サポートしあうコミュニティを作っていく

感覚の違いでうまくコミュニケーションが取れないことがある。価値観のすり合わせをするような、通訳をする人が必要

地域の姿は場所によって違う。地域の特色を知ったうえで、地域の人が知らない情報を取り上げ、皆で話す機会を作りたい

若い人から学ぼうという姿勢のある地域はうまくいく。外の人を受け入れる側の気持ちが大変になってくる

自分たちで考えて、必要だと思うことを実践しようとする意識が大切

### POINT

- 「地域の不便」「困りごと」「共通の話題」からコミュニケーションが生まれ、それが繋がりとなっていく。
- 地域の人を巻き込む力のある人、価値観のすり合わせをするような、通訳（媒介）者が必要。
- つながりをつくる仕組みや人が必要で、それぞれの役割があり、それは誰かがやってくれることではない。

## 第3回 とりまとめ（案）に対する意見交換

共通言語、認識が重要だと感じた。問いを投げかける人、場所が必要だと感じた

ある地区では大きな地震の直後、どう支えていくかを住民自身が考えていくようになった

お金が先行してしまうと継続性のない取組で終わってしまう。住民自身が問題意識を持つことが大切

ただし活動のための資金調達に苦労すること。資金や場所も含めて考えていけないといけない

地域をどう再定義するかは住んでいる人、移住してきた人が地域のことをどう自分事としてとらえていくかにかにあるのでは

結局は話すことは重要。そうした場を行政なりに作っていく

地域コミュニティのこれから

**「地域コミュニティ」のあり方を考えていく。これからの地域の「再定義の状況」をどう迎えるか。」**→詳細はP13

# 第1段階 「福祉・子育て」議論の経緯

第1回 11月10日（水）、第2回 11月24日（水）、第3回 12月15日（水）

石井貴広  
見小田早織  
森山佳祐

コロナ禍で困っている人と周りで支える人の距離が遠くなっている。困っている人を支えるのは誰か？共生社会とは何か？

## 第1回 「コロナ下での福祉・子育ての変化は何か？」

お年寄りが通いの場に行かれなくなった。他人と接する機会が激減したため、認知機能や体力が低下している人が増えている

「孤独」が健康を害する要因になっている

学校が一斉休校になり、学校での先生や友達との繋がりが分断されてしまった

助けたいときに助け合えない。オンラインとリアルでの併用が必要。リアルで会うことが重視される場も残す

ITに対して苦手意識を持っている人が多く、自分には無理だと思う高齢者もいる

テレワークの推進により、男性が育児に関わる機会が増えた

POINT

- 社会的孤立やコミュニティの分断が顕在化した。
- IT格差の問題が顕著に。
- 男性の育児参加が増える等のポジティブな変化もある。

## 第2回 「コロナ下での福祉・子育ての課題にどう立ち向かうか？」

様々な社会参加への選択肢がある中で、取り残されてしまう人への支援も必要である

高齢者や障がい者であっても、オンラインとオフラインに関係なく個人として社会に参加できることが大事

オンラインだとその人の表面的なものしか伝わらない。その背景にある根本的に必要な支援を把握するためにはリアルな対面が必要

オンライン・オフラインのメリットを取り入れたソフト・ハード両面での社会の中で繋がりが必要

世の中にフィットしないと感じる人たちの支援がしたい。移住してきた自分も興味地域にフィットしていない

成長したり、学校へ進学するにつれて感じた生きづらさに対して問い続けている

POINT

- 気軽に会えないことから生まれた社会的な孤立やコミュニティの分断を超えるために、オンラインへの取組をさらに進めていく（使い方も含めて）。
- 主体的な助け合いへの参加意識をどうつくっていくか。
- 支援が必要な人が増えていくなかでの取組を考えていく必要がある。

## 第3回 とりまとめ（案）に対する意見交換

「福祉」の考え方が旧来型の弱者救済的な welfare として使っているが、「福祉」は well-being（個人の主体的な自己実現）という概念に移り変わっている

「支援される側」と「支援する側」というのが分断を生んでいる。双方向的な関係性や双方向のケアの方がこれからのケアなのではないか

制度的には、弱者救済の方法が分かれているのが問題。どんな人でも包括的に支える必要がある

ごちゃ混ぜの関係でお互いが関わっていくような環境が表現できればいい

各場所でのつなぎ役（地域をつなぐ学校の先生、地区長など）の考え方は重要。声を拾い、容認するためにはやはり“対話”だなと思う

個人の能力向上に関係なく、サポートできる社会の環境が用意されていることが大切。そういう表現が盛り込まれていければいい

福祉・子育てのこれから

- 「福祉・子育て」のこれから**
- 多様性を認め合い、誰一人として取り残さない、それぞれの自己実現ができる社会を目指していく**
- 「福祉・子育て」へ。** →詳細はP14

# 第1段階 「産業」 議論の経緯

ファシリテーター  
倉田早希  
矢作郁留

第1回 11月10日 (水)、第2回 11月24日 (水)、第3回 12月15日 (水)

コロナ禍で人々の消費行動が変化。人口減少時代、県内産業はこれからどう稼ぐか？

第1回 「コロナ下で信州の産業はどのように変化したか？」

- 長野県の観光は大量生産・大量消費スタイルだった。それが通用しづらくなり、個人をターゲットにした「より響く」ものごとを提供するようになった
- 「誰もが楽しめる」から「好きな人がより楽しめる観光」へ変化している
- BtoB領域で企業同士がその地域内で支え合える関係が作れると、わざわざ都会の企業に仕事を頼らずに、地域経済が回っていく仕組みが作れる
- 今後は企業間の受発注という関係性から企業同士が一緒に作っていく＝コラボレーションが大事になっていくんじゃないか
- 変化についていくための対策ができていた事業者は現在も打撃が少ない  
変化を嫌う人にとってはかなり厳しい時期
- 常に考え続け、対応していくことが、変化が起きた時への予防になる

POINT

- 量から質へと変化している。大規模を追わない、ターゲットを絞るなど、負けない強みを持つことが生き残り戦略上大切になってきている。
- 企業同士のコラボレーションが大事に。
- 変化に対応するために考え続けることが大切。

第2回 「変化する産業に対してどのような対応していくべきか、どんな仕組み化ができるか？」

- その土地の歴史や食、文化、人等の魅力を発信し、地域の人々が語ることで、「その地域ならではの」が生まれ、消費・稼ぐに繋がる
- 生産過程のストーリーの付加価値を向上させることで「生産プロセスの質」を磨き、それを強みにすべき
- 地域資源を活かすのが得意な小規模事業者が大企業の力を借りて、共存できないか
- 小規模事業者が作り出すオリジナルティ(価値)を認めて、そういったものを集約することで、大企業も利益を出せる形に
- 新しい風を起こすのは、移住者のベンチャーが多い  
しがらみや固定概念がない
- チャレンジができるための状況・環境づくりも重要

POINT

- 信州の産業の強み=生産プロセス・体験の質を活かした地域資源を活用していく
- 挑戦できる状況・環境づくりが地域の産業に新しい風を起こす

第3回 とりまとめ (案) に対する意見交換

- “長野の強み”をキーワードとしても盛り込めないか。長野県の自然の要素を盛り込めば、新しい産業の形がありそう
- 地方に行くほど事業者が少なく、競争が起らない。新しい人が新しいことを始めやすい環境はあると思う
- 新たな取組をやろうと思った人がのびのびできる環境づくりも大切
- 事業者間の健全な競争環境を推奨する。その中のポジティブな協働や淘汰、再参入が活発に行われることを期待する
- 今後コロナ感染が収束しても、オーバーツーリズムが起こるイメージが湧かない
- 質をとるビジネス、量をとるビジネス、プレイヤーが選択できる自由があることが重要

産業のこれから

**「時代も環境も変化が予測できない社会に。レジリエントな「産業」の稼ぎ方とは。」**  
→詳細はP15

# 第1段階 「学び」 議論の経緯

ファシリテーター  
北澤淳  
山本美彩子  
横山紗央里

第1回 11月10日（水）、第2回 11月24日（水）、第3回 12月15日（水）

人生100年時代、コロナ禍のような社会の大きな変化は生きているうちに何度か起きるだろう。これからどう学ぶ？ どう自分を変える？

## 第1回 「コロナ下での学びの変化、そして学びとは何か？」

従来の学習環境にオンラインやICTが浸透し、現場がその良さに気付き始めている

在宅勤務が続いたことで、自分に向き合う時間が増え、自分の学びを深めることができた

効果的な学びを行うために学校はどういう役割を担うべきなのか考え続けている

自分で問いを持ち、答えを探し、形にして、また問いが生まれるという一連の「探求」が学びんじゃないか

できるようになる、わかるようになる、このワクワクが学びで、一生継続していくことが学び続けられるということ

「学ぶ気持ちを忘れない」ためにどうしたらよいか  
その場をどう構築していくか

### POINT

- 学ぶ環境を提供する側もどう生きているかが問われている。
- 学ぶ選択肢が多様化している、新しいサービスが一気に常識化した。
- 自分をアップデートする学びへの姿勢が問われている。

## 第2回 「学び続けるために必要なこととは？」

何歳になっても学び続ける姿勢を持ちたい  
子どもが余白を持つことが大切

子どもの留年があってもいい  
子どもたちの教育にも様々な選択肢が必要では？

いろんな人に会ったり、いろんな場所に行ったり、いろんな出会いによって見えてくる

なんでも楽しめる  
その感覚が身についている人は学び続けられる

なんでも自分の興味関心がある分野に結び付けられ、自分事にできることが大事

大人と子供が接点を持つような学びの場を作る

### POINT

- 大人も子どもも教えると教わるが入れ替わりながら、学ぶ場をどうデザインするか。
- 学び合い、問い続ける姿勢こそが大切。
- 学校教育の話が多く出てきているが、大人の学びとも通底する。

## 第3回 とりまとめ（案）に対する意見交換

学び合う時代になった。境界、固定観念に囚われずに、学校もアップデートする必要がある

知らない世界を教えてくれるのは、子どもたちの世代かもしれないし、自分よりも上の世代かもしれない

「学ぶのがいやだな」って人も実は学んでいる もっと身近にある学び、おしつけられずにみんな学んでいる状態が理想

「どうしたらいいのだろう？ → 学ぶことこの面白さ → 小さいころの経験」が大事

教育は格差を是正する装置のほず 頑張れる層の背中を押すことも必要だが、事情により頑張れない層を取りこぼさないように

多様性の中で、自分と異なる視点、価値観、異なる発想に触れ合うことで、学ぶ意欲も高まるのではないか

### 学びのこれから

**「人生100年時代の「学び」とは。学び合いから、自分をアップデートし続ける人をつくっていく。**

→ 詳細はP16

# 第1段階 参加者の行動宣言①

第1段階終了に際し、参加者の皆様お一人おひとりに、今後に向けた「行動宣言」をしていただきました。

## 「働き方・暮らし方」



- ・ オンラインでの働き方・暮らし方を進め&勧めながら、リアルのぬくもりを大切にしていきたい
- ・ 働き方・暮らし方を話す機会と人を増やす
- ・ 一生が学び Try&Error 変人支援
- ・ 機会（出会い）をつくる→ちよつとやってみる→発信する→機会をつくる（出会い）…のループ
- ・ デジタルを使いつつ対話も大切にしながら、自分らしい働き方・生き方を考え続け、実践し続けます
- ・ 長野県の面白い人と話したい

## 「文化・スポーツ」



- ・ 長野でレネサンスをおこす。
- ・ 地域を製作する ※製作するとは、繋ぐ人（人と人の営み）であること長野の地域と人の営みをつなぐようなことをしていきたい
- ・ 川上の人をもっと知り、川下の人に伝わる言葉をもっと考える
- ・ 人をつなげる以前に、川上の人を自分はまだ知らない 川上の人に出会い知ったうえで、川下の人にわかりやすい言葉で伝えていきたい
- ・ 「出会い」スポーツのみならず、色々な分野の人と出会うことで、刺激を受けながら、自分も発信し続けていきたい モットーである「焦らず、比べず、諦めず」を大事に活動していきたい

## 「地域コミュニティ」



- ・ 農業とITを互いに教え双方向のリテラシー向上
- ・ 人との対話を大切にし、共に考え共に動く
- ・ 地域を楽しく考える主体人作り講座開校
- ・ 「問い」かける場所を創る
- ・ それぞれの過去の自分が地域の役にも役立つことを応援していきたい
- ・ また地域の役に感謝し、卒業証書を送りたい
- ・ 福祉をキッカケに地域の再構築を！
- ・ 地域を知る人を知る
- ・ 地域のごことは地域の人が1番知っている。地域から学ぶ姿勢を忘れずに
- ・ 誰が上でも下でもない 対等な関係を忘れない、気をつける

## 第1段階 参加者の行動宣言②

### 「福祉・子育て」



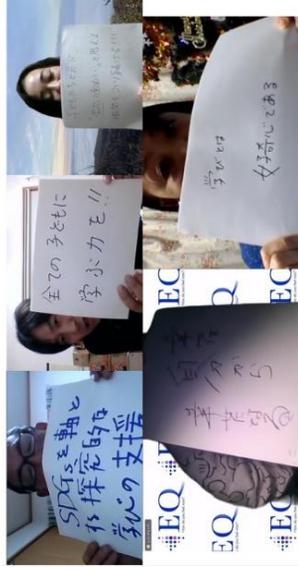
- ・社会的処方の実装
- ・新しい社会に即した福祉・子育てのカタチを考える！
- ・今ちよつと世の中にFitしていない人たちの場所を創りたいです
- ・皆にやさしい地域をめざして居場所・通いの場を開きます
- ・「ハート」ある人とつながって、老若男女みんなが集う「場」をつくります

### 「産業」



- ・「地域循環共生社会」をめざす（自然×産業×まち・地域づくり）
- ・新しい視座を養うために、新しい出会いを作る！（毎日、毎週、毎月）
- ・（地域の憩いの場となるような）小商いをひとつはじめ

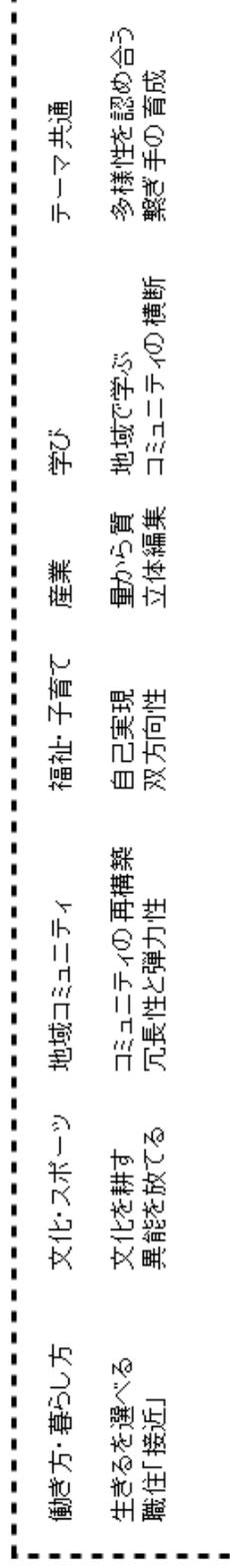
### 「学び」



- ・SDGsを軸とする探求的な学びの支援
- ・全ての子どもに学ぶ力を！
- ・子どもたちと共に、「学ぶって面白い」と思える瞬間をつくり続ける！
- ・幸せは自分から幸せになる
- ・学びとは好奇心である

## 第2段階 テーマの設定

第1段階において各テーマに共通して出されたキーワードと、昨今の社会情勢において重要なキーワードを掛け合わせて、第2段階のテーマを設定しました。



テーマ別キーワード

上記キーワードの掛け算

これからの地域社会の編み方

これからの豊かさとは。「しあわせ」とは。

これからの暮らし(人生)のレジリエンス



対話の社会性を担保

今の時代として必要なキーワード



## 第2段階 テーマの設定

### ■ 第1回

#### ① これからの地域社会の編み方

コミュニティの再構築について、さまざまなテーマで話し合われた。セクターを越え、コミュニティを横断する地域社会、多様な中に包摂性のあるコミュニティのあり方をどう構築するか。

協働と共創、関係人口、地域での学びの場、変化を恐れない地域社会をどう残していくのか。

#### ② これからの暮らし（人生）のレジリエンス

境目のない暮らしや、さまざまな働き方を認め合い、試行錯誤（特に失敗）が許容される暮らし、本質的なしあわせを求め、変化の時代に、問い、考え、動き続けることを恐れずにいられる社会になっていくための課題は何か。

#### ③ これからの支援する人をどう育てるか

繋ぎ手、翻訳家、関係性を紡ぎ、橋を架けるコーディネーターの存在はあらゆるシーンで必要とされている。そんな人材を育て、かつその役割を続けていける社会になっていくために何が必要か。

### ■ 第2回

#### 「これからの豊かさ、しあわせをどう実現していくか。」

第1回の①～③の対話を手掛かりに、これからの豊かさ、しあわせとは何か、どう実現していくか、を考える。

### ■ 第3回

#### 第2段階とりまとめ（案）に対する意見集約

# 第2段階 第1回 議論の経緯

1月16日（日）

ファシリテーター

石井貴広

森山佳祐

矢作郁瑠

横山紗央里

## 第1グループ

「これからの地域社会の編み方」

セクターを越え、コミュニティを横断する地域社会、多様な中に包摂性のあるコミュニティのあり方をどう構築するか。協働と共創、関係人口、地域での学びの場、変化を恐れない地域社会をどう残していくのか。

 自分と違う意見に耳を傾ける人が増えてほしい。助け合える社会にするためには、お互いに理解しあうことが大切

 地域には暗黙のルールがあることで変革を起こしにくい。変化を起こしたい人たちが横で繋がると大きな変化が生まれる

 地域にどんな人がいるか共有される機会が欲しい

 違うコミュニティ同士をマッチングする役割を持った人が必要だと思う

 地域をつなぐ翻訳者のような役割が必要。地域の課題を市や県に要望するだけではなく、地域としてうまく解決できないうまく

 いきなり大きな変化を生むのは難しいが、小規模でもやってみせて、少しずつ周りの「いいね」を広げ、大きな変化にしていく

### POINT

- ① 地域に関わる人々の意識の変化。地域を捉え直し、多様性、変化を受け入れる。
- ② つながり・気づきを生む場づくり。お互いが支え、認め合う場、地域を知り、学び合う場をつくる。
- ③ 双方方向の関係性をつくる。提供する側・される側ではなく、主体的に支え合える、これからの共助の形を作っていく。

## 第2グループ

「これからの暮らし（人生）のレジリエンス」

境目のない暮らしや、さまざまな働き方を認め合い、試行錯誤（特に失敗）が許容される暮らし、本質的なしあわせを求め、変化の時代に、問い、考え、動き続けることを恐れずにいられる社会になっていくためにどうすればいいのか。

 みんなが同じルートで生きていくのが当たり前、という価値観をまず変えていかなければ

 学校の成績などにとらわれない「評価軸の多様性」が社会に広まっていくことが大切

 どんな状態であっても、その人が望むような自己実現できる道が閉ざされないようなサポートが社会として求められる

 失敗を恐れる文化が染みつき、自分からSOSを出すことを躊躇しがちな大人に対して、まわりから手助けする仕組みが必要

 病氣、障がい、様々なセクシャリティーなどが当たり前に存在しているインクルーシブなコミュニティが必要

 世代、所属する組織といったコミュニティの垣根を越えて、人と人がつながる場所（ごちゃまぜの場）をつくる

### POINT

- ① これまでの「当たり前」から離れ、人々の考え方や価値観が変わっていく。
- ② 既存の社会の仕組みや制度を見直し、多様性と公平性を確保する。
- ③ すべての人が支え合い、互いの個性を認め合うインクルーシブな環境を整える。

## 第3回グループ

「これからの支援する人をどう育てるか」

繋ぎ手、翻訳家、関係性を紡ぎ、橋を架けるコーディネーターの存在はあらゆるシーンで必要とされている。そんな人材を育て、かつその役割を続けていける社会になっていくために何が必要か。

 ボランティア等に対し教える側が頑張りが過ぎて準備してもフェードアウトされる。自分で何か価値や面白みに気づいたほうが、長続きする

 官民の連携がより一層重要になってくる

 一つの分野の中でも、川上の人と川下の人はお互いに何が必要か、わかっていない状態

 分野内での共通の価値判断ができる基準を作る必要がある。まずは整理。分野を横断していくのはその後の後になるはず

 繋げる人もどんな支援が必要かわかっていない。その中で何が大切なのかの共通の価値判断の基準もない

 新しいチャレンジをする以前に、川上・川中・川下間が相互に会話できる「場」を設けることの優先度が高い

### POINT

- ① 教わる＋学ぶ視座を養う。先輩や先生から「教わる」/自分の興味関心について、主体的に「学ぶ」。
- ② 川の流れを整理する。川上・川中・川下で分断している川の流れを川中が中心になって整え、お互いを知る。
- ③ 川の流れを整理する「場」、分野同士を繋ぐ場づくり。すべての関係者が上・中・下の現状を「場」の中で「教わる」。

## 第2段階 第2回 議論の経緯

1月30日（日）

これからの豊かさとは、しあわせをどう実現していくか？  
ライフスタイルの変化、真に必要なとされる地域文化、地域コミュニティの再構築、社会包摂によって成立する社会、質的变化を求めめる産業、人生100年時代の学び、これからの豊かさ、しあわせとは。それをどう実現していくか。

### 「これからの地域社会の編み方」グループ

 選べる、ということが「豊か」なのでは？  
 自分の人生をコントロールできて、しあわせだと思う  
 過去はみんなしんどいけど助け合って生きてきた。現在は大変なことのアウトソーシングが進み負担は減ったが関係性が希薄になった。よい塩梅は？  
 自分が楽しめる（しんどくない）範囲で地域社会に貢献することが個人と社会の幸せに結びつく  
 困っていること 課題に思っていること 相互に情報発信することでお互いにとって必要なものを考えていけるのでは  
 ミツバチのように色々な所を飛び回ってつないでくれる人がいるとよい

#### POINT

- ① 地域に関わる人（住民、行政、企業）が地域の「今」を知ること。
- ② 地域の文化、風土、新しいチャレンジ、困りごとetc...を発信すること。
- ③ 地域内外をつなぐ人、硬直化した考えをほぐす人（ミツバチ）が必要。

### 「これからの暮らし（人生）のレジリエンス」グループ

 一人ひとりが自分らしい生き方を実現できる社会はどんな姿か？  
 生まれた家庭、与えられた環境によらず、すべての人が同じ機会やサービスなどにアクセスできる社会では  
 周囲が失敗やうまくいかなかったことに対して寛容である社会だと思おう  
 多様性を認めることが必要になってくるが、無理してわかり合おうとすることで逆に分断を生むこともある 対話は難しい...  
 興味や関心、価値観で形成される「テーマ型コミュニティ」が多様に林立していて、すべての人がどこかに所属できるとよい  
 マイノリティよりもマジョリティに支援が偏っているのでは 支援のバランスが大切 マジョリティ側に寛容さが必要

#### POINT

- ① 多様性を認める社会であること。
- ② 「テーマ型コミュニティ」が林立し、すべての人がどこかに所属できることが大切。
- ③ マジョリティ、マイノリティに対する「公正」な行政や社会の支援の枠組みが必要。

### 「これからの支援する人をどう育てるか」グループ

 若い人に向けて都会志向だけが豊かさではないということを知らせたい  
 色々な選択肢があることを知ってほしい  
 自分で見つける魅力もあれば、人から知らされる魅力もある  
 自分の経験や知識が役にたったらいいなと思うことがあるが、若い人との接点がなく持てない  
 壁はそれぞれが作っている 悪いものではない 橋がかかっていけばいい  
 わからないことは悪いことではない。対話や体験の共有を重ねていくことで、越えやすくなる 橋を架けるのはつなぎ手の役割

#### POINT

- ① 豊かさの多様性を示す
- ② 世代間のつなぎ方を考える
- ③ 「壁」を取っ払うのではなく、橋を架け、行き来しやすい状態をつくる

## 第2段階 第3回 議論の経緯

## 第2段階とりまとめ（案）について意見交換

2月13日（日）

### 「これからの地域社会の編み方」グループ

「利他」が大切だというのはよく分かるが、自己犠牲というようなニュアンスを自分は感じてしまう

「感謝の関係性」は唐突感がある上下関係を生んでしまう

「自立」の意味を伝えては自立することは依存先を増やすこと」という表現がいいと思った

「誰もが」ゆるやかなつながりや多くの所属を「生み出し、関われる」社会をつくるのほうがいい？

「ソーシャルキャピタル」が何を示すのか補足したほうがいい

対話を繰り返すことが一番大事

### 「これからの暮らし（人生）のレジリエンス」グループ

「Diversity（多様性）」、「Inclusion（包摂性）」、「Equity（公平性）」が入っているところは良いと思う

「利他の精神」という言葉から、自己犠牲を想起する

このチームでの議論は、自分の幸せを追求した先に、社会貢献にもつながっていく「自己実現」が主たる方向性だった

誰の立場からの文章なのか「わたしたち」とは誰か「行政」と「県民」？

行政としての主体性が問われるのか今後行政側がどう行動するのか

行政に期待することとして、①県民が自己実現することを支援すること、②対話の場をたくさんつくること、③県民のトライ＆エラーを邪魔しないこと

### 「これからを支援する人をどう育てるか」グループ

つなぎ手のしあわせは、つながりができることで自分の居場所になることつながりが新たに生まれるを生むこと

それぞれの負担、犠牲が必要ながりはあまりよくない。自主的なつながりがいい離れてもOK

色々な分野が混ざり合う場から、分野ごとのコミュニティが形成されていくことがいい 長野県全体で

文化とは。関わる人達によって変化するもの文化そのものが変わっていてもいいが、感謝の気持ちは変わらないほしい

スポーツに限らず、さまざまな面でもが楽しめるようなレクリエーションの要素も含んだ場を作り出したい

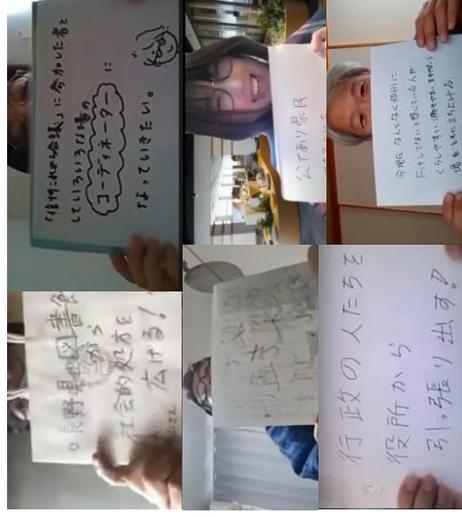
行政はアイデアや交流の場を拡げる役割場を提供する役割 主体というよりは下支え

上記意見を検討し、とりまとめへ（P4）

## 第2段階 参加者の行動宣言

第2段階終了に際し、参加者の皆様お一人おひとりに、今後に向けた「行動宣言」をしていただきました。

- 楽しいことを考え続ける 長野県のコミュニティをつくる  
県内の面白い人たち同士をつなぐようなコミュニティをつくりたい 明確に誰と一緒にというのはもう少し詳細が詰まって来たら考えたい
- 多様な人と文化が交流する余白をつくる 意図しない出会い創出
- コミュニティの重要性は明らかだが、そもそも交流する余裕がない現状があると思う 特定のコミュニティのための場ではなく、意図しない出会いを生み出せるような余白を生み出したい
- 誰もが多様性を認め合い、安心して暮らせる地域づくり 心豊かなふる里 長野県
- それぞれの地域の活動をつなぎ合わせながら、地域に変化を生んでいけたら 今回の参加者ともfacebookでつながり、それぞれの活動に対していいねをしていく ちよっとしたことでも認めてもらうことは大切
- まずは相互フォローしてみる みなさんの願いを叶える
- みなさんのことをまず知りながら、縁の下の力持ちのような存在に
- 行政の人たちを役所から引っ張り出す！
- 地域で農業を通じて交流、ITで担い手を募集
- 今現在なんとなく信州にFitしていないと感じている人が暮らしやすい（働きやすい、生きやすい）場をともに立ち上げる
- 「信州これから会議」に参加した者としていろいろな場のコーディネーターになっていきたい
- 県立長野図書館から社会的処方を広げる！
- 公であり県民、できることを最大限に
- 「交われ平行線」 障がいがあるなしに関わらず誰もが交わる社会へ
- 「SDGsゲーム」と「対話型鑑賞」で新時代の学びを拓くお手伝いをする
- “加工なし”で長野県内をつなぐ
- 心地よい関係性を持った仲間と横のつながりを増やす（仕事でもプライベートでも）





# AIを活用した長野県の未来に関するシミュレーションについて（概要版）

＜第3回総合計画審議会(R4.4.25)資料を要約＞

- ・次期総合5か年計画の検討及び根拠に基づく政策形成（EBPM）を推進するため、AIを活用して長野県の未来に関するシミュレーションを行う。
- ・今回は、長野県と日立コンサルティングで連携して取り組み、京都大学広井良典教授にも協力いただき実施。
- ・シミュレーション結果は、総合計画審議会です望ましい未来や取組の方向性などについて議論いただくための基礎資料とする。

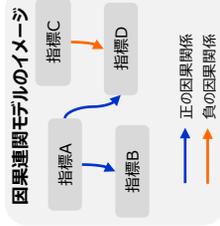
## 資料3-5

長野県総合政策課

### ■ AIシミュレーションの概要

指標間の因果関係を定義した「因果連関モデル」をもとに、AIでシミュレーションを行い、起こりうる未来シナリオの列挙及び望ましいシナリオに向かうための要因を解析。以下の3つのステップでシミュレーションを実施。

- 情報収集ステージ：因果連関モデルを作成
- 選択肢検討ステージ：AIで未来シナリオをシミュレーション
- 戦略選択ステージ：人間が望ましいシナリオを選択、要因を解析



### ■ 2018年「AIを活用した長野県の持続可能な未来に向けた政策研究」

- ✓ 2018年に京都大学・日立製作所等と連携し「長野県の持続可能な未来に向けた政策研究」を実施。長野県の社会を表すモデルを作成し、AIにより2万通りの未来像をシミュレーションした。
- ✓ その結果、最も望ましい未来シナリオは、観光など外部に対して開かれていると同時に、地域内経済循環や郷土愛なども優れているという「開かれたローカライゼーションモデル」と呼ぶる姿で、これを実現するような政策を進めることが重要、とのまとめが得られた。
- ✓ 今後の課題として、因果連関モデルのさらなる精度向上に取り組みむこと等が挙げられた。

### ■ 今回の取組の概要

- ・長野県の社会を表現するために必要と必要と考えられる指標を抽出、指標間の因果関係を定義。
- ・因果関係の強さと遅延、それぞれの不確実性（ばらつき）に数値を設定しモデルを構築。

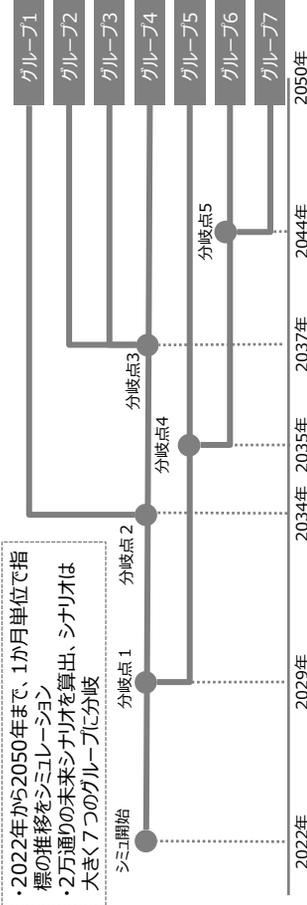
### ・2018年の取組と比較し、モデルの客観性を高め、精度を向上させることに重点

- モデルに組み込む指標は、数値指標のみを採用（前回は抽象的なキーワードが半数）
- 因果関係の数値化に、実績データを用いた回帰分析など、データに基づく方法を採用

→215の指標、529本の因果関係で構成される因果連関モデルを構築、シミュレーションを実施

### ■ シミュレーション結果

- ・2022年から2050年まで、1か月単位で指標の推移をシミュレーション
- ・2万通りの未来シナリオを算出、シナリオは大きく7つのグループに分岐



### ■ 各グループの評価

・7つのグループについて、12の分野ごとに評価を実施

	環境	公正・包摂	健康・医療・介護	教育	社会基盤	結婚・出産・子育て	移住・交流・観光	地域・くらし	雇用	産業	行財政	人口
グループ1	○	△	△	○	△	×	△	△	○	△	×	×
グループ2	○	△	△	○	△	△	○	○	○	○	○	△
グループ3	○	×	△	△	△	△	○	×	×	△	×	△
グループ4	△	×	△	×	△	△	○	×	×	×	△	△
グループ5	○	△	×	×	△	×	△	△	×	△	×	△
グループ6	△	×	×	×	△	△	×	×	△	△	×	△
グループ7	△	×	×	×	×	△	×	×	△	△	×	×

→グループ2が最も望ましいシナリオ

### ■ 望ましい未来シナリオ（グループ2）の特徴

**環境・経済が両立し交流も活発で、持続可能な社会づくりが進んでいる未来像**

- ・温室効果ガス削減など環境分野が改善するとともに、産業・雇用分野も向上、環境と経済が両立。
- ・労働環境の改善に加え、生活時間のゆとりも向上し、ワークライフバランスが良好。
- ・観光など交流が活発であるほか、子どもの学力など教育分野も向上。県財政も改善。

### ■ 望ましい未来シナリオに向かうためのポイント

・各分岐点で、望ましい未来シナリオ（グループ2）に移行するために必要なポイントは以下のとおり。

#### 分岐点1（2029年）まで

- 県内に魅力的な教育や仕事の機会があるなど、若者にとって充実した選択肢があること
- エネルギー消費が抑制されていることに加え、温室効果ガスの吸収源でもある豊かな森林が維持されていること
- 公共交通機関が活発に利用され、地域交通が維持されていること

#### 分岐点2（2034年）まで

- 健康寿命の延伸、介護環境の充実などにより、高齢者自身や支える人にとって暮らしやすい環境であること
- 企業の集積等による雇用機会の拡大に加え、女性管理職の増加など女性が活躍できる労働環境が整っていること

#### 分岐点3（2037年）まで

- 自然公園など長野県の魅力が活かされ、観光面で人をひきつけていること
- 農林業において、担い手の確保や生産性の向上が進んでいること

# (参考) 因果連関モデルの指標一覧

## ① 環境 (20指標)

- 再生可能エネルギー自給率
- 最終エネルギー消費量
- 温室効果ガス総排出量
- 自動車騒音の環境基準適合率
- 湖沼の環境基準達成率
- 河川の環境基準達成率
- 一般廃棄物リサイクル率
- 一般廃棄物総排出量
- 産業廃棄物総排出量
- 森林蓄積量
- 森林吸収量
- 充電インフラ設置数
- 自動車保有台数
- 次世代自動車 (EV等) 保有台数
- 環境のためになることを実行している人の割合
- 長期優良住宅認定件数
- 交通分担率 (公共交通)
- 民有林の間伐面積
- 太陽光発電のエネルギー生産量
- 小水力発電のエネルギー生産量

## ② 公正・包摂 (14指標)

- 配偶者暴力相談支援センターにおける相談件数
- 児童相談所における児童虐待相談対応件数
- 自殺者数
- 男性賃金を100としたときの女性賃金
- 社会全体が男女平等と感じる人の割合
- 管理的職業従事者に占める女性の割合
- シニエーション
- 生活保護受給率
- 犯罪(刑法犯)の発生件数
- 認知症サポーター数
- 介護・看護の理由により離職した者の割合
- 子どもの貧困率
- 特別支援学校高等部卒業生の就労率
- 障がい者就職率

## ③ 健康・医療・介護 (26指標)

- 健康寿命 (男女平均)
- 平均寿命 (男女平均)
- 病院数
- 特別養護老人ホームの床数
- 回復期機能病床の数
- 医療施設従事医師数 (人口当たり)
- 産科・産婦人科医師数 (15~49歳女子人口当たり)
- 介護職員数
- 生活習慣病受療者数 (人口当たり)
- 生活習慣病による死亡者数 (人口当たり)
- 気分「感情」障害 (うつ等) 受療者数 (人口当たり)
- 新入院患者数
- スपोर्ट行動者率
- 訪問介護利用者数
- 調整済み要介護(要支援)認定率
- 24時間対応在宅介護サービスの65歳人口カバー率
- 県民医療費 (人口当たり)
- 特定健診受診率
- 健康のため食生活に関する取組を行っている人の割合
- 成人の喫煙率
- 通いの場への参加者数
- かかりつけ医を持つ人の割合

- オンライン診療科届出医療機関数
- 「非常に」ストレスを感じる人の割合
- 介護・看護時間
- 死亡数

## ④ 教育 (17指標)

- 英語コミュニケーション能力水準 (英検準2級レベル)
- 「基礎的・基本的な内容の定着度」が全国平均より高い生徒の割合
- 学校満足度
- 「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童生徒割合
- 「授業がよく分かる」と答えた児童生徒の割合
- 高等学校卒業生の進学率
- 海外への留学者率 (高校生)
- 県内大学の収容力
- 全国体力・運動能力・運動習慣等調査での体力合計点
- 総合型地域スポーツクラブ育成率
- 市町村公民館における字級・講座数
- 社会教育費 (一人当たり)
- 社会教育学級・講座数
- 社会人の大学・大卒院生数
- 不登校児童生徒率
- 教員一人当たりの児童生徒数
- いじめ発生件数

## ⑤ 社会基盤 (16指標)

- 市街地流下し、氾濫被害発生への恐れ、河川における浸水想定家屋数
- 道路平均交通量
- 公共交通機関利用者数
- 公共交通機関利用者数 (鉄道)
- 公共交通機関利用者数 (乗合バス)
- 公共交通機関利用者数 (タクシー)
- 交通事故死者数
- 住宅の耐震化率
- 基幹道路の供用延長距離数
- 道路改良率
- 市町村における土木部門の職員数
- 医療施設からの到達時間カバー率
- 砂防堰堤整備数
- 河川整備率
- 自然災害による死者・行方不明者数
- 新設住宅着工戸数

## ⑥ 結婚・出産・子育て (15指標)

- 婚姻件数
- 県と市町村等の結婚支援事業による婚姻件数
- 保育所等定員数
- 男性の育児休業取得率
- 理想の子ども数を持たない理由に経済的負担を挙げた人の割合
- 理想の子ども数を持たない理由に育児の心理的負担を挙げた人の割合
- 保育所等利用待機児童数
- 放課後子どもプラン利用可能児童数
- 6歳未満の子供がいる家の家事時間
- 合計特殊出生率
- 三世帯同居率
- 生涯未婚率 (男女平均)
- 有配偶出生率
- 出生数

## ⑦ 移住・交流・観光 (22指標)

- 自然公園利用者数

- 松空港利用者数
- 客室稼働率
- ホテル・旅館施設数
- 平均宿泊日数
- 延べ宿泊者数(日本人)
- 延べ宿泊者数(外国人)
- スキー場利用者数
- 行祭事・イベント数
- 観光消費単価
- 観光消費額
- 海外からの留学生数 (人口当たり)
- 文化芸術活動に参加した人の割合
- 都市農村交流人口
- 転入者数
- 転出者数
- 県内出身学生のUターン就職率
- 県内高校生の県内4年制大学への進学率
- 移住者数
- 日帰り観光客数
- 文化施設の利用者数

## ⑧ 地域・くらし (22指標)

- 図書館数 (人口当たり)
- 通勤の平均時間
- 住宅保有率
- 体育・スポーツ施設数
- 教養・娯楽 (サービス) 支出額
- 3次活動 (自由時間における活動) の時間
- 書籍購入額
- 人口集中地区の人口割合
- 過疎地域の割合
- 自主防災組織の組織数
- 消防団員数 (人口当たり)
- ボランティア行動者率
- 能力が仕事や公共的活動で発揮できていると思う人の数
- 地域の行事に参加する児童の割合
- 地域おこし協力隊員の定着率
- 地域おこし協力隊員数
- 地域運営組織数
- 自分のお暮らしている地域に誇りを感じる人の割合
- コンパクトシティ形成に取り組む市町村数
- 空き家率
- NPO法人数
- 災害時住民支えあいマップ等の作成地区数

## ⑨ 雇用 (16指標)

- 高齢者の有業率
- 大卒者進路未定者率
- 県内就職率(県内大学卒業生)
- 県内就職率(県内公立高校卒業生)
- 女性の有業率
- 有給休暇取得率
- テレワーク導入企業の割合
- 正規雇用者数
- 若者の有業率 (25-39歳)
- 技能検定合格者数
- 完全失業率
- 有効求人倍率
- 就業率

- 一般労働者の総実労働時間
- 共働き世帯数
- 70歳以上で働ける企業の割合

## ⑩ 産業 (28指標)

- 企業立地件数
- 開業率
- 域内自給率
- 年間商品販売額
- 製造品出荷額等
- 製造業の付加価値額 (従業者一人当たり)
- 法人経営体数 (農林水産業)
- 食料自給率 (カロリーベース)
- 遊休農地の再生・活用面積
- 農業の単位面積当たり生産性
- 農業農村協産産額
- 新規就農者数(45歳未満)
- 耕地面積
- 林業産出額
- 林業新規就業者数
- 素材(木材)生産量 (バイオマス含む)
- 工技C等の支援による実用化等の成果事例件数
- 県内大学と県内企業・自治体との共同研究・連携事業
- 中小企業付加価値額 (従業員300人未満)
- 県内サービス産業の売上高
- 研究者数
- 県内総生産(名目)
- 労働生産性
- 県民一人当たり家計可処分所得
- 特許等出願件数 (事業所千件当たり)
- 県内事業所数
- 県内倒産件数
- 民間投資額

## ⑪ 財政 (9指標)

- 行政手続のオンライン利用率
- マイナンバーカード普及率
- 職員数
- 投資的経費
- 歳出額
- 経常収支比率
- ふるさと納税による歳入額
- 県税収入
- 社会保障関係費

## ⑫ 人口 (10指標)

- 平均世帯人数
- 年少人口
- 生産年齢人口
- 高齢人口
- 県内人口
- 単身世帯の割合
- 外国人口
- 高齢化率
- 女性人口 (15~49歳)
- 高齢単身世帯の割合

## 計215指標

## しあわせ信州創造プラン2.0の地域のめざす姿・地域重点政策一覧

しあわせ信州創造プラン2.0 地域重点政策	
佐久	<p>佐久の健康長寿や多様な産業等の地域の特長(魅力)を活かすとともに、地域外との交流を拡げ、住んでよし、訪れてよし、の地域を目指します</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 健康長寿と地産地消の推進を核とした地域づくり</li> <li>2 美しい星空と青空をテーマとした観光地域づくり</li> <li>3 地理的優位性を活かした移住の促進を二地域居住の探求</li> <li>4 浅間山の防災体制強化及び活用</li> <li>5 新たな交流・物流に向けた中部横断自動車道の整備促進</li> </ol>
上田	<p>～多様な人材を呼び込み、人の力で輝く「上田地域」の創造～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 若者・女性・外部人材の活躍推進</li> <li>2 産学官金連携、広域連携による基幹産業の振興</li> <li>3 地域の強みを生かし健康をテーマとした観光地域づくり</li> <li>4 結節点という立地を生かした住環境整備・移住推進</li> </ol>
諏訪	<p>諏訪湖や八ヶ岳が育む「豊かな自然」と地域の強みを活かした「競争力のある産業」が共存する地域の実現</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 産業競争力の強化、地域を支える人材の確保、育成</li> <li>2 「諏訪湖を活かしたまちづくり」（諏訪湖創生ビジョン）の推進</li> <li>3 選ばれ続ける観光地域づくり</li> <li>4 安全・安心な地域づくり</li> </ol>
上伊那	<p>リニアの時代へ 世界とつながり豊かな暮らしが営まれる伊那谷 (INA Valley)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 "伊那谷らしく"豊かで活力に満ちた暮らしづくり</li> <li>2 伊那谷の未来を担う人づくり</li> <li>3 二つのアルプスを活かした交流圏域づくり</li> <li>4 リニア開業を見据えた伊那谷 (INA Valley) づくり</li> </ol>
南信州	<p>伝統と最先端が響き合う「リニア新時代」のフロンティア～南信州～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域の潜在力を活かした産業が躍進する南信州</li> <li>2 豊かな自然・文化と共生し、人と地域が輝く南信州</li> <li>3 安全・安心な暮らしが実現できる南信州</li> </ol>
木曾	<p>人口減少下でも「木曾らしい」上質な生活が安全に営め、自己実現ができる地域であり続けるために</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「木曾らしさ」を活かした地域づくり</li> <li>2 「御嶽山」の安全対策の推進と土砂災害の防止等</li> <li>3 人口減少下における人材の確保</li> <li>4 生活基盤・経済活動基盤の確保</li> </ol>

<p>松本</p>	<p>美しい信州の中心に世界の人々が集い、賑わいあふれ、 住みやすい松本地域をめざします</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 信州まつもと空港を活かした地域振興</li> <li>2 産学官金連携等による健康長寿の取組</li> <li>3 地震防災対策の充実強化</li> <li>4 中山間地域の魅力向上</li> </ol>
<p>北アルプス</p>	<p>北アルプス地域に「暮らす人」誰もが自信と誇りを持ち、 「訪れる人」すべてが感動と喜びを実感できる地域を目指します</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 北アルプスの恵みと人々の知恵を活かした産業の振興</li> <li>2 四季折々に訪れ、北アルプスと安曇野の自然を満喫できる観光地域づくり</li> <li>3 生涯を通じて健康で、安心・安全に暮らせる地域づくり</li> <li>4 北アルプス地域を選び、生き生きと活動できる地域づくり</li> <li>5 地域を支える松本糸魚川連絡道路の整備</li> </ol>
<p>長野</p>	<p>「活力あふれ・人が集い・文化薫る」中核的都市圏の形成へ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域資源を生かして県経済をけん引する「活力あふれる」長野地域づくり</li> <li>2 「人が集い、文化薫る」魅力ある長野地域づくり</li> <li>3 地域重点政策を支える、地域一体となった「生活基盤の確保」の推進 (地域連携プロジェクト)</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「ながの果物語り」プロジェクト</li> <li>2 「体験」と「交流」を軸とした「地域の特長を生かした広域観光」推進プロジェクト</li> </ol>
<p>北信</p>	<p>雪とともに育む豊かな故郷北信州</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 若者定着のために雪に強い故郷暮らしプロジェクト</li> <li>2 「信越自然郷」等通年型広域観光推進プロジェクト</li> <li>3 「米・果物・きのこ」産地パワーアッププロジェクト</li> </ol>